

平成28年度

上川農業試験場年報

平成29年10月

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 農業研究本部

上 川 農 業 試 験 場

上 川 農 業 試 験 場 天 北 支 場

目 次

本 場

I. 概 要	1
1. 沿 革	1
2. 施設及び試験圃場	1
3. 機 構	2
4. 職員の配置	3
5. 職 員	3
1) 現在員	3
2) 転入者	3
3) 転出者及び退職者	4
6. 支出決算額	4
7. 新たに設置した主要施設および備品	4
II. 作 況	5
1. 気象概況	5
2. 作 況	7
1) 各作物の耕種概要	7
2) 各作物の作況	7
(1) 水 稻	7
(2) 秋まき小麦	9
(3) 春まき小麦	10
(4) 大 豆	11
(5) 小 豆	12
(6) ばれいしょ	13
III. 試験研究及び地域支援活動等の概要	14
1. 各グループの試験研究成果及び地域支援活動等の概要	14
2. 各グループの試験研究の内容	15
1) 水稻グループ	15
2) 生産環境グループ	16
3) 地域技術グループ	19
IV. 試験研究の成果と普及	22
1. 普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項等	22
2. 論文ならびに資料	23
1) 研究論文、試験成績	23
2) 口頭・ポスター発表	24
3) 専門雑誌、著書・資料	25
4) 新聞等記事	25
3. 印刷刊行物	25

4. 実務研修	-----	25
5. 技術指導及び普及	-----	26
6. 講師の派遣	-----	31
7. 普及組織との連絡会議等	-----	31
8. 関連委員会・学会研究会役員	-----	32
V. その他	-----	32
1. 職員研修	-----	32
1) 一般研修	-----	32
2) 専門研修	-----	32
3) 職場研修	-----	32
2. 技術研修生の受け入れ	-----	33
3. 海外技術協力	-----	33
4. 参観・交流	-----	33
1) 一般参観来場者	-----	33
2) 第21回上川農試公開デー	-----	33
3) 新技術発表会	-----	33
5. マスコミ等への対応	-----	34
6. 委員会活動	-----	35
1) 委員会及び構成委員一覧	-----	35
2) 図書委員会	-----	36
3) 研修委員会	-----	36
4) 業務委員会	-----	36
5) 安全衛生委員会	-----	36
6) 土壌病害対策委員会	-----	36
7) 企画情報および農業情報技術システム運営委員会	-----	36
7. 表彰	-----	36
8. 学位授与	-----	36
VI. 自己点検対応表	-----	37

天北支場

I 概要	40
1. 沿革	40
2. 施設および試験圃場	40
3. 機構	41
4. 職員の配置	41
5. 職員	41
6. 支出決算	42
7. 収入決算額	42
8. 建物（固定財産）	43
9. 新たに購入した備品	43
II 気象と作況	44
1. 気象概況	44
2. 作況	46
III 試験研究及び地域支援活動の概要	47
1. 研究成果及び地域支援活動の概要	47
2. 試験研究成績の内容	47
IV 試験研究の成果と普及	53
1. 普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項等	53
2. 論文ならびに資料	53
3. 印刷刊行物	53
4. 技術指導および普及	53
V その他	55
1. 職員研修、職場研修、表彰および海外出張等	55
2. 共催行事	55
VI 自己点検対応表	57
付 施設配置図	58

I 概 要

1. 沿革

当場は、明治19年に旧神居村忠別（現在の旭川市神居1条1丁目155番地）に忠別農作試験所として発足し農作物栽培の適否を試みたのを始めとする。この試験所は、翌年上川仮道路開削に従事する樺戸集治監忠別出張所に引き継がれた。明治22年道庁は屯田兵及び移住民に蚕桑の業を授け、かたわら農作物を試作する忠別農作試験場（現旭川市1条2、3丁目）を復活した。明治30年に旭川村6条11丁目（現旭川市東高敷地）に、さらに明治37年には旭川の市街拡張のため永山村（旭川市永山6条18丁目302番地）に移転し、平成5年度末までの90年間にわたって各種の試験を行った。

平成6年度からは現在地（上川郡比布町南1線5号）の新庁舎、新圃場での試験を開始した。

その間に名称や機構も変遷し、昭和25年には農業試験研究機関の整備統合で、従来の試験研究が国立と道立に二分されたのに伴い、当場は道費支弁の北海道農業試験場上川支場となり、さらに昭和39年11月、本道の農畜一体とした試験研究を行うため機構改革が実施され、当場は北海道立上川農業試験場と改称された。

なお、昭和2年より昭和21年まで地方債事業として、農林省指定による水稻新品種育成試験を実施し、その後、昭和22年より昭和25年まで札幌農事改良実験所上川試験地が併置されていた。

一方、試験業務も明治27年から従来の蚕桑中心の試験から一般畑作の試験に移り、さらに明治33年からは、水稻もとりあげられるようになった。明治37年永山村に移転してからは水稻に関する試験が多くなり、それらの成果は広く普及された。大正4年からは水稻の本格的品種改良試験が開始された。その結果、大正時代には「坊主」系統が広く栽培され、昭和10年に有名な「富国」ができるまで「坊主」の時代が続いた。

その後、戦前戦後を通じ数多くの優良品種を育成し、名実ともに当場は本道稲作に関する中心的試験機関となった。

なお、昭和41年農林省の全額助成による水稻指定試験が再度設置された。また、昭和44年には普及事業の強化にとまない専門技術員が配置された。

また、畑作科（士別市東山村）は昭和29年3月から

北海道立農業試験場原々種の生産事業を開始し、昭和31年1月女満別分場の廃止と同時に北海道立農業試験場原々種農場士別分場として発足した。

さらに、昭和33年4月より北海道立農業試験場上川支場畑作科が併置され、畑作試験に着手した。昭和34年4月に北海道原々種農場士別分場を廃止し、北海道立上川農業試験場畑作科と改称された。昭和62年4月には、農業試験研究機関の機構改正により園芸部門を強化し畑作園芸科と改称し、平成4年度からは畑作科と園芸科に分離し一層の強化を図った。同時に、病害虫防除所の設置にともなう病虫予察科は病虫科に改称された。平成5年度末の移転に伴い士別市の畑作科、園芸科も現在地に統合された。

移転整備経過は、平成元年9月に現在地への移転が決定され、平成3年度に圃場整備、平成4年度に庁舎及び付属施設建設工事に着手し、平成6年8月末に外構工事を含め完成した。

平成18年度の機構改正により天北農業試験場は廃止され、上川農業試験場天北支場とされた。

平成22年4月からは22の試験研究機関が地方独立行政法人北海道立総合研究機構として発足し、道総研農業研究本部上川農業試験場となった。機構ではグループ制が導入され、管理科と水稻科が統合し水稻グループ、栽培環境科と病虫科が統合し生産環境グループ、畑作園芸科は主査（地域支援）を加え地域技術グループとなった。

2. 施設及び試験圃場

1) 圃場の土壌条件

当場は、上川郡比布町の基線（国道40号線）と町道南1線、町道5号と6号に囲まれた面積約28.5haの方形の用地で、その標高は160m前後である。中央には用地を東西に二分する形でウツツ工場川が流れている。東方約700mに石狩川がある。分布する土壌は褐色低地土で、一部は礫層が地表下30～60cmに現れる礫質褐色低地土である。試験圃場造成前の土地利用は水田、宅地、農道等であった。

試験圃場造成に当たり、農道は殆どそのままの位置で新しい農道を造成した。試験圃場は、表土部分を取り除き、水田は心土均平を、畑圃場は心土部分の厚

さ30cmの石礫除去を行った後、表土戻しをした。
 造成された試験圃場の代表的な土壌条件は、水田では細粒褐色低地土・造成相、また畑圃場は礫質褐色低地土・造成相である。

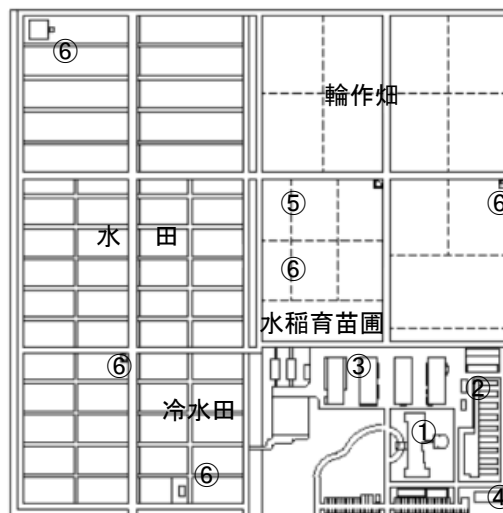
2) 施設、圃場の利用区分と面積

施設 (m ²)	
・ 庁舎	2,804
・ 吹抜小屋	214
・ 車庫	179
・ バイオテクノロジー研究棟	2,147
・ 人工気象棟・ガラス網室	459
・ 給油所	3
・ 昆虫飼育実験棟	282
・ 参観者便所	27
・ 共同作業棟	916
・ 共同調査棟	907
・ 冷水田ポンプ舎	63
・ 水田ポンプ舎	20
・ 畑かんポンプ舎	11
・ 農機具庫	907
・ 外便所(2)	72
・ 研究資材棟	907
・ 乾燥庫	214
・ その他	279
計	10,411 m ²

試験圃場 (ha)	
水田関係	14.05
・ 水田	9.99
(内冷水田)	(1.05)
・ 農道・畦畔	2.85
・ 用排水路	0.29
・ 施設・用地など	0.92
畑関係	9.52
・ 畑	7.81
・ 農道	1.13
・ 枠試験地	0.19
・ 堆肥場	0.20
・ 施設・用地など	0.15
・ 排水路	0.04
建物敷地	4.83
用地合計	28.40 ha

3) 土地利用及び施設・圃場の配置

(土地利用・施設・圃場の配置図)



- | | |
|------------|-----------|
| ① 庁舎 | ④ 昆虫飼育実験棟 |
| ② 温室・人工気象室 | ⑤ 精密枠試験圃 |
| ③ 調査・作業棟 | ⑥ 圃場内施設 |

3. 機構

総務課：主査（総務）、主査（調整）において、
 人事・予算・支出・財産管理を行う。

研究部

水稻 G：水稻の品種の育成に関する試験研究・
 調査及び作業計画・労務及び業務用施設の
 の管理を行う。

生産環境 G：施肥法改善・土壌改良・良質米生産の
 ための施肥法改善・食味改善、水稻の直
 播栽培・移植栽培法の改善、冷害安定技
 術、除草剤の試験研究・調査及び水稻・
 その他主要作物の病害及び害虫の生理・
 生態、新農薬の効果査定などの試験研究
 ・調査及び病虫害発生予察事業を行う。

地域技術 G：畑作物の品種改良と栽培法、水田転換
 畑での畑作物導入及び園芸作物の品種改
 良と栽培法の試験研究・調査及び技術体
 系化チームとして、現地実証試験等を実
 施する。

天北支場：別掲

4. 職員の配置（平成29年3月31日現在）

	法人職員	道派遣	再雇用	計	備 考
場 長	1			1	
研 究 部 長	1			1	
総 務 課 長		4		4	
水 稲 G	6		3	9	
生 産 環 境 G	7		1	8	
地 域 技 術 G	6			6	
合 計	21	4	4	29	

5. 職 員

1) 現在員（平成29年3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
場 長	田 中 英 彦	研 究 主 幹	古 川 勝 弘
研 究 部 長	川 岸 康 司	主 査（栽培環境）	藤 倉 潤 治
総 務 課 長	田 中 和 夫	主 査（病虫）	新 村 昭 憲
主 査（総務）	倉 持 雅 治	研 究 主 査	大 塚 省 吾
主 査（調整）	小 山 内 利 文	研 究 主 任	藤 根 統
指 導 主 任	伊 藤 雄 一	研 究 主 任	岡 元 英 樹
研 究 主 幹	佐 藤 毅	研 究 主 任	熊 谷 聡
主 査（育種）	平 山 裕 治	専 門 研 究 員（再雇）	三 浦 周 裕
研 究 主 査	木 内 均	研 究 主 幹	稲 川 裕
研 究 主 任	西 村 努	主 査（畑作園芸）	菅 原 章 人
研 究 職 員	道 満 剛 平	主 査（地域支援）	沢 口 敦 史
専 門 研 究 員（再雇）	前 川 利 彦	研 究 主 任	井 上 哲 也
主 任	石 崎 雅 一	研 究 主 任	藤 田 涼 平
主 任（再雇）	加 藤 章 広	研 究 主 任	地 子 立
技 師	佐 藤 隼 太		

2) 転 入 者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
研 究 主 任	藤 田 涼 平	H28.4.1	北見農業試験場から
総 務 課 長	田 中 和 夫	〃	北海道農政部生産振興局技術普及課から
指 導 主 任	伊 藤 雄 一	〃	農業研究本部から
技 師	佐 藤 隼 太	〃	新規採用

3) 転出者及び退職者

職 名	氏 名	発令年月日	備 考
研 究 主 任	江 原 清	H28.4.1	花・野菜技術センターへ
総 務 課 長	石 田 功	〃	留萌振興局産業振興部農務課へ
主 任	山 本 修	〃	上川総合振興局産業振興部調整課へ
農業技能員(再雇)	真 坂 幸 男	〃	退職
主 任	山 本 一 乃	H28.8.10	上川総合振興局産業振興部農務課へ

6. 支出決算額

(単位：円)

科 目	当初予算額	最終予算額	決 算 額	残 額
戦 略 研 究 費	600,000	600,000	599,344	656
重 点 研 究 費	1,500,000	1,500,000	1,500,000	0
職 員 研 究 奨 励 費	0	0	0	0
経 常 研 究 費	13,201,000	13,472,700	13,205,350	267,350
技 術 普 及 指 導 費	222,000	855,399	855,399	0
研 究 用 備 品 整 備 費	7,095,600	7,095,600	7,095,600	0
維 持 管 理 経 費	41,623,000	35,013,000	35,012,818	182
運 営 経 費	25,969,000	34,527,152	34,147,520	379,632
共 同 研 究 費	2,000,000	2,000,000	2,000,000	0
国 庫 受 託 研 究 費	14,455,000	14,455,000	14,455,000	0
道 受 託 研 究 費	3,486,000	3,486,000	3,486,000	0
そ の 他 受 託 研 究 費	26,154,000	26,154,000	26,154,000	0
施 設 整 備 費 補 助 金	502,000	502,000	501,400	600
そ の 他 補 助 金	761,000	761,000	761,000	0

7. 新たに設置した主要施設及び備品

(単位：円)

品 名	形 式	数 量	金 額	備 考
試験管用培地分注装置		1	3,888,000	
生物顕微鏡	DM2500LED-DIC/DMC190HD-K	1	3,207,600	
無加温パイプハウス	トライアングルハウス	1	2,916,316	
穀粒判別器一式	RGQI 10B	1	870,480	

Ⅱ 作 況

1. 気象概況

《平成 27 年》

11 月：平均気温は 0.4℃低く、降水量は平年の 60%、日照時間は平年の 133%であった。

12 月：平均気温は 2.1℃高く、降水量は平年の 124%、日照時間は平年の 96%であった。

《平成 28 年》

1 月：平均気温は 0.4℃低く、降水量は平年の 111%、日照時間は平年の 93%であった。

2 月：平均気温は 0.9℃高く、降水量は平年の 182%、日照時間は平年の 61%であった。

3 月：平均気温は 0.4℃高く、降水量は平年の 36%、日照時間は平年の 129%であった。

4 月：平均気温は 0.5℃高く、降水量は平年の 94%、日照時間は平年の 94%であった。

5 月：平均気温は 2.5℃高く、降水量は平年の 71%、日照時間は平年の 121%であった。

6 月：平均気温は 1.9℃低く、降水量は平年の 134%、日照時間は平年の 85%であった。

7 月：平均気温は 0.2℃低く、降水量は平年の 125%、日照時間は平年の 116%であった。

8 月：平均気温は 1.0℃高く、降水量は平年の 184%、日照時間は平年の 134%であった。

9 月：平均気温は 0.7℃高く、降水量は平年の 62

%、日照時間は平年の 85%であった。

10 月：平均気温は 1.8℃低く、降水量は平年の 127%、日照時間は平年の 71%であった。

本年の根雪終は 4 月 5 日で平年より 7 日早く、積雪期間は平年より 3 日短かった。耕鋤始（融雪剤散布圃場）は 4 月 21 日で平年より 1 日遅かった。晩霜は平年より 9 日早い 5 月 9 日であった（表 1）。

以上、農耕期間の 4 月～10 月についてまとめると、平均気温は平年に比べ 5 月が 2.5℃高く、6 月と 10 月が 2℃弱低かったが、それ以外は 0.4～1.0℃高かった。降水量は、8 月が 184%と最も多く、6、7、10 月が 125～134%と多かった。それ以外は少なめで 9 月が 62%と最も少なかった。日照時間は 8 月が 134%と最も多く、次いで 5 月、7 月がそれぞれ 121、116%と多かった。それ以外は同等か少なく、10 月は 71%と特に少なかった。

5 月から 9 月までの積算値は、平年に比べ平均気温が 68℃高く、降水量は平年より 125mm 多く、日照時間は 73 時間多かった。

平成 27 年 11 月から平成 28 年 10 月までの気象は表 2 のとおりである。

表 1 季節表

	初霜 (前年)	降雪始 (前年)	根雪始 (前年)	根雪終 (月日)	積雪期間 (日)	降雪終 (月日)	耕鋤始 (月日)	晩霜 (月日)	初霜 (月日)	降雪始 (月日)
本 年	10月15日	10月13日	11月21日	4月5日	137	4月30日	4月21日	5月9日	10月5日	10月23日
平 年	10月7日	10月25日	11月26日	4月12日	140	4月27日	4月20日	5月16日	10月8日	10月24日
比 較	8	△ 12	△ 5	△ 7	△ 3	3	1	△ 7	△ 3	△ 1

注 1) 本年は平27～28年の値。

2) 根雪始、根雪終、積雪期間、耕鋤始は比布圃場の観測値。平年は過去10か年の平均値。

3) 初霜、降雪始、降雪終、晩霜は旭川地方気象台による旭川市の観測値。平年は過去10か年の平均値。

4) △印は平年に比べて早いあるいは短いを示す。

表2 平成28年気象表(旬別)

年 月 旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)				降水日数(日)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	(%)	本年	平年	比較	本年	平年	比較	(%)
2015 上	4.7	5.5	▲0.8	10.1	10.3	▲0.2	-0.9	1.3	▲2.2	12.0	38.7	▲26.7	31	1	6	▲5	39.3	27.7	11.6	142
11 中	2.7	1.3	1.4	6.4	5.0	1.4	-0.8	-2.1	1.3	25.5	28.3	▲2.8	90	5	6	▲1	26.0	19.9	6.1	131
下	-2.6	-0.7	▲1.9	1.6	2.6	▲1.0	-7.6	-4.2	▲3.4	23.5	35.2	▲11.7	67	5	7	▲2	21.2	17.6	3.6	120
平均・合計	1.6	2.0	▲0.4	6.0	6.0	0.1	-3.1	-1.7	▲1.4	61.0	102.2	▲41.2	60	11	19	▲8	86.5	65.2	21.3	133
2016 上	-1.0	-3.4	2.4	2.0	-0.1	2.1	-4.1	-7.4	3.3	35.5	30.3	5.2	117	6	7	▲1	9.5	18.8	▲9.3	51
12 中	-1.6	-5.2	3.6	1.9	-1.8	3.7	-6.2	-9.7	3.5	20.0	23.6	▲3.6	85	6	7	▲1	13.5	16.5	▲3.0	82
下	-6.2	-6.4	0.2	-2.5	-2.8	0.3	-10.3	-11.4	1.1	36.5	20.5	16.0	178	7	8	▲1	29.4	19.2	10.2	153
平均・合計	-2.9	-5.0	2.1	0.5	-1.6	2.0	-6.9	-9.5	2.6	92.0	74.4	17.6	124	19	22	▲3	52.4	54.5	▲2.1	96
2016 上	-4.9	-7.5	2.6	-3.1	-3.8	0.7	-7.3	-12.7	5.4	36.0	16.9	19.1	213	10	6	4	9.3	17.8	▲8.5	52
1 中	-8.9	-9.3	0.4	-5.1	-5.4	0.3	-13.2	-14.4	1.2	4.5	19.5	▲15.0	23	3	6	▲3	22.5	21.0	1.5	107
下	-8.3	-7.9	▲0.4	-4.5	-3.7	▲0.8	-14.5	-13.2	▲1.3	17.0	15.4	1.6	110	6	6	▲0	31.8	29.7	2.1	107
平均・合計	-7.4	-8.2	0.9	-4.2	-4.3	0.1	-11.7	-13.4	1.8	57.5	51.8	5.7	111	19	19	0	63.6	68.5	▲4.9	93
2 上	-7.6	-8.6	1.0	-3.0	-3.8	0.8	-13.7	-14.5	0.8	9.0	12.6	▲3.6	71	4	6	▲2	20.2	33.8	▲13.6	60
2 中	-3.5	-7.1	3.6	-0.6	-2.5	1.9	-7.6	-12.9	5.3	45.5	15.7	29.8	290	9	5	4	15.7	34.9	▲19.2	45
下	-7.1	-5.3	▲1.8	-3.0	-0.2	▲2.8	-12.8	-11.5	▲1.3	17.0	11.0	6.0	155	6	4	2	26.1	33.6	▲7.5	78
平均・合計	-6.1	-7.0	0.9	-2.2	-2.2	▲0.0	-11.4	-13.0	1.6	71.5	39.3	32.2	182	19	15	4	62.0	102.3	▲40.3	61
3 上	-5.2	-4.2	▲1.0	0.6	0.4	0.2	-12.3	-9.9	▲2.4	9.0	14.5	▲5.5	62	4	5	▲1	44.3	42.9	1.4	103
3 中	-0.5	-1.9	1.4	4.7	2.5	2.2	-7.1	-7.0	▲0.1	2.0	20.1	▲18.1	10	2	6	▲4	62.9	36.3	26.6	173
下	0.2	-0.5	0.7	5.7	4.4	1.3	-5.6	-5.5	▲0.1	5.5	11.4	▲5.9	48	4	5	▲1	69.8	57.6	12.2	121
平均・合計	-1.8	-2.2	0.4	3.7	2.4	1.2	-8.3	-7.5	▲0.9	16.5	46.0	▲29.5	36	10	16	▲6	177.0	136.8	40.2	129
4 上	4.1	1.8	2.3	9.4	6.7	2.7	-1.2	-3.6	2.4	13.5	20.0	▲6.5	68	4	5	▲1	62.2	53.9	8.3	115
4 中	4.0	3.9	0.1	8.8	9.5	▲0.7	-0.2	-1.3	1.1	24.0	16.6	7.4	145	9	4	5	30.2	58.2	▲28.0	52
下	6.6	7.5	▲0.9	12.6	13.9	▲1.3	1.1	1.4	▲0.3	10.0	13.8	▲3.8	72	2	4	▲2	65.9	57.2	8.7	115
平均・合計	4.9	4.4	0.5	10.3	10.0	0.2	-0.1	-1.2	1.1	47.5	50.4	▲2.9	94	15	12	3	158.3	169.3	▲11.0	94
5 上	10.9	10.2	0.7	17.0	16.7	0.3	4.7	4.0	0.7	22.5	23.6	▲1.1	95	5	5	0	56.8	57.4	▲0.6	99
5 中	14.3	10.7	3.6	21.1	17.0	4.1	7.9	5.0	2.9	8.5	20.1	▲11.6	42	3	4	▲1	80.5	54.0	26.5	149
下	16.7	13.5	3.2	23.9	20.1	3.8	10.0	7.3	2.7	14.0	19.6	▲5.6	71	4	4	0	88.1	74.3	13.8	119
平均・合計	14.0	11.5	2.5	20.7	17.9	2.7	7.5	5.4	2.1	45.0	63.3	▲18.3	71	12	13	▲1	225.4	185.7	39.7	121
6 上	12.6	16.3	▲3.7	16.8	22.9	▲6.1	8.5	10.6	▲2.1	26.5	16.6	9.9	160	4	3	1	36.3	61.1	▲24.8	59
6 中	16.0	17.5	▲1.5	20.6	23.1	▲2.5	12.2	12.8	▲0.6	38.0	31.9	6.1	119	6	4	2	31.2	50.4	▲19.2	62
下	17.7	18.2	▲0.5	23.6	24.4	▲0.8	12.6	13.0	▲0.4	34.0	24.9	9.1	137	3	3	▲0	79.0	61.1	17.9	129
平均・合計	15.4	17.3	▲1.9	20.3	23.5	▲3.1	11.1	12.1	▲1.0	98.5	73.4	25.1	134	13	11	2	146.5	172.6	▲26.1	85
7 上	18.8	20.6	▲1.8	24.6	26.3	▲1.7	13.5	15.8	▲2.3	43.0	31.2	11.8	138	4	3	1	77.7	57.2	20.5	136
7 中	20.1	19.9	0.2	26.2	25.5	0.7	15.6	15.6	0.0	31.0	48.9	▲17.9	63	3	4	▲1	60.0	57.9	2.1	104
下	22.5	21.6	0.9	27.9	27.4	0.5	18.3	17.0	1.3	104.5	63.2	41.3	165	4	5	▲1	63.2	58.2	5.0	109
平均・合計	20.5	20.7	▲0.2	26.2	26.4	▲0.2	15.8	16.1	▲0.3	178.5	143.3	35.2	125	11	11	▲0	200.9	173.3	27.6	116
8 上	23.0	22.6	0.4	29.4	28.2	1.2	17.8	18.0	▲0.2	25.5	51.1	▲25.6	50	3	3	▲0	77.7	56.1	21.6	139
8 中	22.7	21.8	0.9	27.7	27.1	0.6	18.4	17.5	0.9	210.5	82.3	128.2	256	4	6	▲2	61.1	44.5	16.6	137
下	21.7	20.0	1.7	27.4	25.6	1.8	16.5	15.2	1.3	73.5	34.7	38.8	212	6	4	2	72.2	57.2	15.0	126
平均・合計	22.5	21.5	1.0	28.2	27.0	1.2	17.6	16.9	0.7	309.5	168.1	141.4	184	13	13	▲0	211.0	157.8	53.2	134
9 上	20.4	19.0	1.4	25.3	24.6	0.7	17.0	14.4	2.6	56.5	72.6	▲16.1	78	6	5	1	26.7	48.1	▲21.4	56
9 中	15.4	16.7	▲1.3	20.9	22.7	▲1.8	10.6	11.8	▲1.2	18.0	39.9	▲21.9	45	2	4	▲2	42.2	48.9	▲6.7	86
下	15.4	13.4	2.0	21.6	19.6	2.0	10.2	8.0	2.2	19.0	39.5	▲20.5	48	3	5	▲2	57.9	51.7	6.2	112
平均・合計	17.1	16.4	0.7	22.6	22.3	0.3	12.6	11.4	1.2	93.5	152.0	▲58.5	62	11	14	▲3	126.8	148.7	▲21.9	85
10 上	10.7	11.3	▲0.6	16.0	17.1	▲1.1	5.4	6.3	▲0.9	48.0	36.8	11.2	130	7	5	2	37.1	47.0	▲9.9	79
10 中	8.4	8.8	▲0.4	13.9	14.5	▲0.6	3.6	3.7	▲0.1	39.5	37.4	2.1	106	6	6	▲0	39.4	38.6	0.8	102
下	2.3	6.6	▲4.3	5.3	12.0	▲6.7	-0.4	1.8	▲2.2	52.5	36.0	16.5	146	9	5	4	12.8	39.9	▲27.1	32
平均・合計	7.1	8.9	▲1.8	11.7	14.5	▲2.8	2.9	3.9	▲1.1	140.0	110.2	29.8	127	22	17	5	89.3	125.5	▲36.2	71

- 1) 比布アメダス観測値。
- 2) 平年は比布アメダス前10か年の平均値。
- 3) ▲印は平年に比べて減を示す。

表3 農耕期間積算値(5月~9月)

期間	項目	平均気温(°C)	降水量(mm)	降水日数(日)	日照時間(hr)
5月上旬 ~	本年	2,741	725	60	911
	平年	2,673	600	62	838
9月下旬	比較	68	125	▲2	73

- 注
- 1) 比布アメダス観測値。
 - 2) 平年は過去10か年の平均値。
 - 3) ▲印は平年に比べて減を示す。

2. 作況

1) 各作物の耕種概要

各作物の耕種概要は下記の通りである。

表4-1 水稻の耕種概要

苗代	苗種類		播種量 (乾籾重) (g/枠)			施肥量 (g/m ²)				
						N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N追肥(g/枠)	
	成苗ポット(置き床)		35 (-)			2.7(27)	5.5(34)	4.4(18)	- (-)	
本田	苗種類	畦巾 (cm)	株間 (cm)	1株本数 (本)	株数 (株/m ²)	施肥量 (Kg/10a)				
						N	P ₂ O ₅	K ₂ O	堆肥	
	成苗ポット	33.3	12.0	3	25	8.0	9.7	6.9	1000	

表4-2 畑作物の耕種概要

作物名	前作物	畦巾 (cm)	株間 (cm)	1株本数 (本)	播種粒数 (粒/m ²)	株数 (株/10a)	施肥量 (Kg/10a)				
							N	P ₂ O ₅	K ₂ O	MgO	堆肥
秋まき小麦	緑肥ひまわり	30	-	-	255	-	4+6+4	10.0	6.0	2.5	-
春まき小麦	緑肥大豆	30	-	-	340	-	9.0	16.2	10.8	2.7	-
大豆	秋まき小麦	60	20	2	-	8333	1.8	13.2	9.0	4.2	-
小豆	秋まき小麦	60	20	2	-	8333	3.0	12.0	7.0	3.0	-
ばれいしょ	緑肥ひまわり	75	30	-	-	4444	7.5	15.0	10.5	3.8	-

2) 各作物の作況

(1) 水 稲 : 並

事由：播種は平年より1日遅い4月15日に行った。育苗期間中の天候は高温多照に経過し出芽は良好で、苗の生育は平年より進んだ。移植は平年より1日早い5月18日に行った。移植時の苗素質は平年並であった。

移植時からの低温・日照不足により植え痛みが見られたが、5月末の高温・多照により活着は良好であった。しかし、6月上旬の低温・日照不足により生育は大きく遅れ葉色も黄化した。6月20日の主稈葉数は平年より少なく、草丈も低く、m²当たり茎数も少なかった。

6月下旬は低温・日照不足、7月上旬も低温となり生育はさらに遅れた。幼穂形成期は平年より2~3日遅く、止葉期は平年より5~6日遅かった。しかし、7月中旬の高温・多照、下旬の高温により生育は回復した。7月20日の葉数は平年並、茎数は並からやや多かったが、草丈は低かった。出穂期は平年より3~4日遅く、穂揃い日数は1日長かった。

8月下旬から9月上旬の日照は平年より多かったが、気温が低く経過したため、成熟期は平年より2~9日遅かった。登熟日数は平年に比べ「ななつぼし」、「ゆめぴりか」は長く、「きらら397」は並であった。成熟期の稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並であった。

m²当たり穂数は平年に比べ「ななつぼし」が並、「きらら397」「ゆめぴりか」はやや多く、一穂粒数は「ななつぼし」が並、「きらら397」は少なく、「ゆめぴりか」は多かったことから、m²当たり総粒数は「ななつぼし」が並、「きらら397」はやや少なく、「ゆめぴりか」は多かった。稔実歩合、登熟歩合、籾摺歩合は3品種ともほぼ平年並であった。精玄米千粒重は平年よりやや軽かったが、10a当たり精玄米重の平年比は「ななつぼし」が104%、「きらら397」が96%、「ゆめぴりか」が99%で、3品種の平均は100%であった。検査等級は平年並であった。

したがって、本年の作況は「並」である。

表4 水稻の生育

項目		品 種 名			ななつぼし			きらら397			ゆめぴりか			
		／年次			本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月日)	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	4.15	4.14	1	
	移植期 (月日)	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	5.18	5.19	△ 1	
	幼穂形成期 (月日)	6.26	6.23	3	6.29	6.26	3	6.26	6.24	2	6.26	6.24	2	
	止葉期 (月日)	7.15	7.09	6	7.16	7.11	5	7.15	7.09	6	7.15	7.09	6	
	出穂期 (月日)	7.25	7.21	4	7.26	7.23	3	7.24	7.20	4	7.24	7.20	4	
	成熟期 (月日)	9.14	9.09	5	9.14	9.12	2	9.14	9.05	9	9.14	9.05	9	
	穂揃日数 (日)	8	7	1	8	7	1	9	8	1	9	8	1	
	登熟日数 (日)	51	49	2	50	51	△ 1	52	48	4	52	48	4	
	生育日数 (日)	152	148	4	152	151	1	152	145	7	152	145	7	
移植時	草丈 (cm)	15.0	13.6	1.4	15.0	12.9	2.1	15.3	13.5	1.8	15.3	13.5	1.8	
	葉数 (枚)	4.2	4.0	0.2	4.3	4.1	0.2	4.2	4.3	▲ 0.1	4.2	4.3	▲ 0.1	
	茎数 (本)	1.8	1.8	0.0	1.9	1.9	0.0	1.9	2.0	▲ 0.1	1.9	2.0	▲ 0.1	
	第1葉鞘高 (cm)	2.3	2.6	▲ 0.3	2.5	2.5	0.0	2.5	2.5	0.0	2.5	2.5	0.0	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.73	4.64	0.09	4.75	4.42	0.33	4.66	4.78	▲ 0.12	4.66	4.78	▲ 0.12	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	7.9	8.3	▲ 0.4	8.3	8.6	▲ 0.3	8.2	8.6	▲ 0.4	8.2	8.6	▲ 0.4
	7月20日	10.4	10.3	0.1	11.0	11.1	▲ 0.1	10.8	10.7	0.1	10.8	10.7	0.1	
	止葉葉数	10.4	10.3	0.1	11.0	11.1	▲ 0.1	10.8	10.7	0.1	10.8	10.7	0.1	
	茎数 (本/m ²)	6月20日	473	621	▲ 148	619	725	▲ 106	543	683	▲ 140	543	683	▲ 140
	7月20日	745	734	11	879	785	94	849	813	36	849	813	36	
	草丈 (cm)	6月20日	33.8	39.8	▲ 6.0	31.6	33.8	▲ 2.2	33.9	37.9	▲ 4.0	33.9	37.9	▲ 4.0
7月20日	75.9	81.3	▲ 5.4	67.5	73.2	▲ 5.7	75.8	79.9	▲ 4.1	75.8	79.9	▲ 4.1		
成熟期	稈長 (cm)	69.3	68.5	0.8	64.4	62.5	1.9	67.3	65.1	2.2	67.3	65.1	2.2	
	穂長 (cm)	16.9	16.8	0.1	16.2	16.6	▲ 0.4	16.9	16.8	0.1	16.9	16.8	0.1	
	穂数 (本/m ²)	683	677	6	750	724	26	770	746	24	770	746	24	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	49.1	48.6	0.5	40.4	43.3	▲ 2.9	45.2	42.7	2.5	45.2	42.7	2.5	
	m ² 当たり粒数 (×千)	33.5	32.9	0.6	30.3	31.2	▲ 0.9	34.8	31.7	3.1	34.8	31.7	3.1	
	稔実歩合 (%)	95.8	96.1	▲ 0.3	95.5	94.3	1.2	93.9	95.0	▲ 1.1	93.9	95.0	▲ 1.1	
	m ² 当たり稔実粒数 (×千)	32.1	31.7	0.4	28.9	29.4	▲ 0.5	32.7	30.1	2.6	32.7	30.1	2.6	
	同上比 (%)	101	100	1	98	100	▲ 2	109	100	9	109	100	9	
	登熟歩合 (%)	91.8	91.0	0.8	87.2	85.9	1.3	84.7	86.2	▲ 1.5	84.7	86.2	▲ 1.5	
	籾摺歩合 (%)	81.2	81.2	0.0	78.9	80.3	▲ 1.4	79.0	79.1	▲ 0.1	79.0	79.1	▲ 0.1	
	屑米歩合 (%)	2.1	1.9	0.2	3.3	2.4	0.9	3.2	3.0	0.2	3.2	3.0	0.2	
	精玄米千粒重 (g)	21.7	22.6	▲ 0.9	22.6	23.3	▲ 0.7	22.3	23.0	▲ 0.7	22.3	23.0	▲ 0.7	
収量	藁重 (kg/10a)	617	645	▲ 28	555	598	▲ 43	581	622	▲ 41	581	622	▲ 41	
	精籾重 (kg/10a)	847	810	37	793	811	▲ 18	805	812	▲ 7	805	812	▲ 7	
	精玄米重 (kg/10a)	685	657	28	624	650	▲ 26	635	641	▲ 6	635	641	▲ 6	
	収量平年比 (%)	104	100	4	96	100	▲ 4	99	100	▲ 1	99	100	▲ 1	
	検査等級 (等)	1	1下	-	1下	1下	-	1下	1下	-	1下	1下	-	

注 1) 平年値は前7カ年の中、平成21年(最凶年)、平成26年(最豊年)を除く5カ年の平均値。

2) △は平年に比べ「早」、▲は平年に比べ「減」を示す。

3) 苗代耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥量：成分量でm²あたり、床土 N 3.0g, P₂O₅ 7.2g, K₂O 3.0g、

置床 N 27.0g, P₂O₅ 34.0g, K₂O 18.0g

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：成分量で10aあたり、N 8.0kg, P₂O₅ 9.7kg, K₂O 6.9kg、堆肥1,000kg

5) 精玄米千粒重・精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算

(2) 秋まき小麦：良

事由：平年より5日早い9月10日に播種し、平年より5日早い9月19日に発芽期となった。発芽期が平年より早く、9月下旬の気温が高かったことから、越冬前の葉数、草丈および茎数はいずれも平年を上回り、特に茎数は平年の約2倍となった。根雪始は平年より5日早く、根雪終は平年より7日早く、積雪期間は平年より3日短い137日となった。雪腐病発病度は平年より低く、越冬茎歩合は平年よりやや高かった。融雪後高温傾向で推移したため、出穂期は平年より5日早い6月1日となった。その後、6月上中旬が低温寡照となり生育は停滞傾向であったが、6月20日時点

の草丈は平年よりやや高く、茎数は平年を上回った。出穂以降、低温で経過したことから登熟はゆるやかに進み、成熟期は平年より4日遅い7月22日となった。出穂期は平年より5日早かったため、登熟日数は平年より9日長かった。穂数が平年より多く、子実重は平年比117%と多収であった。子実の充実も良好で、千粒重は平年を上回り、リットル重は平年をやや上回った。検査等級は平年を上回る1等となった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表6 秋まき小麦の生育および収量

品 種 名 項 目 \ 年次		きたほなみ		
		本 年	平 年	比 較
播種期 (月・日)		9.10	9.15	△ 5
出芽期 (月・日)		9.19	9.24	△ 5
出穂期 (月・日)		6.01	6.06	△ 5
成熟期 (月・日)		7.22	7.18	4
越冬茎歩合 (%)		132.3	128.2	4.1
雪腐病発病度		3.1	12.1	▲ 9.0
葉数(枚)	平27年10月20日	5.1	4.4	0.7
草丈 (cm)	平27年10月20日	19.6	18.5	1.1
	平28年 5月20日	42.9	38.4	4.5
	平28年 6月20日	88.3	86.5	1.8
茎数 (本/m ²)	平27年10月20日	1473	723	750
	平28年 5月20日	1599	1366	233
	平28年 6月20日	764	685	79
成熟期	稈長 (cm)	78	78	0
	穂長 (cm)	7.9	8.6	▲ 0.7
	穂数(本/m ²)	721	633	88
子実重 (kg/10a)		754	646	108
同上平年比 (%)		117	100	17
リットル重 (g)		813	804	9
千粒重 (g)		42.9	39.2	3.7
検査等級 (等)		1	2中	-

1) 平年値は、前7か年中、平成22年、27年(収穫年度)を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

(3) 春まき小麦：良

事由：融雪は平年より7日早かったが、播種期は平年より3日遅い4月22日であった。出芽期は平年より1日遅れに留まったが、草丈、茎数は平年をやや下回って推移した。6月上中旬の低温の影響を受け出穂期は平年より4日遅く、成熟期は平年より5日遅かった。稈長は平年並で、穂長はやや短かったが、有効茎歩合が高く穂数は平年

並となった。また、出穂後の気温が平年並からやや低く推移するとともに登熟日数が確保されたことから、子実重は平年比121%と多収であった。リットル重と千粒重は平年並であり、検査等級は平年を上回る2上であった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表7 春まき小麦の生育および収量

品 種 名		春よ恋		
項 目	年次	本 年	平 年	比 較
播種期	(月・日)	4.22	4.19	3
出芽期	(月・日)	5.05	5.04	1
出穂期	(月・日)	6.21	6.17	4
成熟期	(月・日)	8.02	7.28	5
草丈 (cm)	5月20日	16.7	20.5	▲ 3.8
	6月20日	68.2	81.7	▲ 13.5
茎数 (本/m ²)	5月20日	496	684	▲ 188
	6月20日	638	758	▲ 120
成 熟 期	稈長 (cm)	95	91	4
	穂長 (cm)	8.1	8.7	▲ 0.6
	穂数(本/m ²)	554	512	42
子実重	(kg/10a)	587	484	103
同上	平年比 (%)	121	100	21
リットル重	(g)	794	788	6
千粒重	(g)	39.4	40.2	▲ 0.8
検査等級	(等)	2上	2中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、24年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) リットル重は1リットル升による測定。

(4) 大豆：平年並

事由：播種期は平年より3日早い5月18日であった。5月中下旬が高温少雨に経過し、土壌が乾燥傾向であったこと、6月上旬の気温が低かったことから、出芽の進みは緩慢となり、出芽期は平年より6日遅い6月9日であった。6月下旬と7月上旬が低温で推移したため、引き続き生育は遅れ、開花期は平年より6日遅い7月18日となった。7月下旬の強い降雨によりほぼ全面が倒伏

した。成熟期は平年より2日遅い9月24日であった。成熟期の主茎長は平年より10.9cm短かく、主茎節数は0.6節少なく、百粒重が平年より3.4g軽い33.1gであったが、分枝数と着莢数は平年を上回り、子実重は427kg/10aと平年並となった。屑粒率は平年より低く、検査等級は平年を上回る1等となった。

したがって、本年の作況は「平年並」である。

表8 大豆の生育および収量

品 種 名		ユキホマレ		
		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.18	5.21	△ 3
出芽期	(月.日)	6.09	6.03	6
開花期	(月.日)	7.18	7.12	6
成熟期	(月.日)	9.24	9.22	2
主茎長 (cm)	6月20日	8.6	11.9	▲ 3.3
	7月20日	53.8	63.5	▲ 9.7
	8月20日	61.1	71.8	▲ 10.7
	9月20日	62.0	72.2	▲ 10.2
	成熟期	62.0	72.9	▲ 10.9
主茎 節数 (節)	6月20日	3.3	4.2	▲ 0.9
	7月20日	9.8	10.5	▲ 0.7
	8月20日	10.1	10.7	▲ 0.6
	9月20日	10.3	10.9	▲ 0.6
	成熟期	10.3	10.9	▲ 0.6
分枝数 (本/株)	7月20日	6.3	7.1	▲ 0.8
	8月20日	7.2	7.5	▲ 0.3
	9月20日	6.7	6.1	0.6
	成熟期	6.7	5.9	0.8
着莢数 (個/株)	8月20日	105	91	14
	9月20日	88	77	11
	成熟期	88	76	12
子実重	(kg/10a)	427	426	1
同上	平年比 (%)	100	100	0
百粒重	(g)	33.1	36.5	▲ 3.4
屑粒率	(%)	1.1	3.7	▲ 2.6
検査等級	(等)	1	3上	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22年、26年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

(5) 小豆:良

事由:播種期は平年より1日早い5月23日に行ったが、その後は土壌が乾燥状態で推移したため、出芽期は平年より8日遅かった。その後、6月中旬の降雨により土壌水分が十分であったことから出芽揃は良好であったが、平年より開花期も9日、成熟期も18日遅れた。7月下旬のまとまった降雨によ

り倒伏も見られたが、成熟期の主茎長と分枝数は平年を上回った。主茎節数と着莢数は平年をやや下回ったが、子実重は平年比111%と多収であった。百粒重は平年よりやや重く、屑粒率は平年よりやや低く、検査等級は平年並であった。

したがって、本年の作況は「良」である。

表9 小豆の生育および収量

品 種 名		エリモショウズ		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
播種期	(月.日)	5.23	5.24	△ 1
出芽期	(月.日)	6.16	6.08	8
開花期	(月.日)	7.31	7.22	9
成熟期	(月.日)	9.22	9.4	18
主茎長 (cm)	6月20日	1.9	4.8	▲ 2.9
	7月20日	18.8	34.8	▲ 16.0
	8月20日	73.8	65.6	8.2
	成熟期	84.1	67.0	17.1
本葉数 (枚)	6月20日	0.0	1.5	▲ 1.5
	7月20日	6.1	9.7	▲ 3.6
	8月20日	12.7	13.0	▲ 0.3
主茎節数 (節)	成熟期	14.1	15.0	▲ 0.9
分枝数 (本/株)	7月20日	3.8	6.0	▲ 2.2
	8月20日	5.8	5.6	0.2
	成熟期	6.6	5.1	1.5
着莢数 (個/株)	8月20日	52	54	▲ 2
	成熟期	53	59	▲ 6
子実重	(kg/10a)	360	325	35
同上	平年比 (%)	111	100	11
百粒重	(g)	13.6	12.6	1.0
屑粒率	(%)	2.4	3.4	▲ 1.0
検査等級	(等)	3中	3中	-

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22、27年を除く5か年の平均値。

2) △は平年より早を、▲は平年より減を示す。

3) 成熟期の数値は、9月20日時点の測定値である。

(6) ばれいしょ：平年並

事由： 植付けは平年より2日遅い5月10日に行い、萌芽も1日遅かった。6月上旬の乾燥と6月上中旬の低温の影響を受け、初期生育は平年よりやや劣った。その後は土壌水分が確保され、地上部生育および塊茎の肥大とも順調に進み、枯ちよう期は平年より1日早く、茎長、上いも数、上いも平均一個重、上いも収量は平年並であった。また、6月下旬以降の日照時間が多かったことか

らでん粉の蓄積が良好で、でん粉価は平年を上回った。

なお、本年は塊茎の個数が確保された上で肥大が順調であり、3L以上の塊茎の割合が低かったことから中以上いもおよび規格内収量は平年を上回った。

したがって、本年の作況は「平年並」である。

表10 ばれいしょの生育および収量

品 種 名		男爵薯		
項 目 \ 年次		本 年	平 年	比 較
植付期 (月.日)		5.10	5.08	2
萌芽期 (月.日)		5.29	5.28	1
開花始 (月.日)		6.26	6.23	3
枯凋期 (月.日)		8.29	8.30	△ 1
茎長 (cm)	6月20日	30.1	38.0	▲ 7.9
	7月20日	51.5	51.7	▲ 0.2
上いも数 (個/株)	7月20日	10.0	9.7	0.3
	8月20日	11.5	10.9	0.6
上いも平均一個重 (g)	7月20日	72	80	▲ 8
	8月20日	100	104	▲ 4
上いも収量 (kg/10a)	7月20日	3199	3406	▲ 207
	8月20日	5116	4957	159
でん粉価 (%)	7月20日	14.4	14.4	0.0
	8月20日	16.6	14.9	1.7
収 穫 期	上いも数 (個/株)	10.7	10.7	0.0
	上いも平均一個重 (g)	100	103	▲ 3
	上いも収量 (kg/10a)	4758	4821	▲ 63
	同上平年比 (%)	99	100	▲ 1
	中以上いも収量 (kg/10a)	4621	4326	295
	同上平年比 (%)	107	100	7
	規格内いも収量 (kg/10a)	4553	4070	483
	同上平年比 (%)	112	100	12
でん粉価 (%)	16.1	14.6	1.5	

注 1) 平年値は、前7か年中、平成22、23年を除く5か年の平均値。

2) ▲は平年より減を示す。

3) 規格内収量は、生食用規格内 (M～2L：60～260g) の収量である

Ⅲ 試験研究及び地域支援活動等の概要

1. 各グループの試験研究成果及び地域支援活動等の概要

1) 水稲グループ

水稲育種試験を担当し、極良食味品種、良質糯品種ならびに直播向き品種の開発を行っている。また、世代促進、葯培養、DNA マーカーの活用による育種法の改善も進めている。

「上育470号」、「上育471号」、「上育糯472号」は、奨励品種決定基本調査2年目および現地試験1年目として供試した。「上育470号」は対照品種「ゆめぴりか」に比べ収量が多く、玄米品質、耐倒伏性およびいもち病抵抗性に優れ、食味が「ゆめぴりか」並に優れ、現地試験での評価も良好であることから次年度現地試験2年目（基本調査3年目）に供試することとなった。「上育471号」は、対照品種「はしまる」に比べ直播栽培での収量が多く、苗立性が優れ、現地試験での評価も良好であることから、次年度現地試験2年目（基本調査3年目）に供試することとなった。「上育糯472号」は耐冷性が“極強”と強く、対照品種「はくちょうもち」、「きたゆきもち」に比べ収量、玄米および白米白度が優り、現地試験での評価も良好であることから、次年度現地試験2年目（基本調査3年目）に供試することとなった。また、昨年新配付した「上育473号」、「上育474号」、「上育糯475号」について検討した。「上育473号」は、対照品種「ゆめぴりか」に比べ収量が多く、いもち圃場抵抗性が強い優点があるが、耐倒伏性が弱いことから廃棄した。「上育474号」は、対照品種「ななつぼし」に比べ収量が多く、いもち圃場抵抗性が強いことから、次年度現地試験（基本調査2年目）に供試することとなった。「上育糯475号」は耐冷性が“極強”と強く、対照品種「はくちょうもち」、「きたゆきもち」、「風の子もち」に比べ食味（おこわ）は優るが、熟期が「風の子もち」より遅く不時出穂の発生もみられることから廃棄した。

また、下記1系統を新配付系統として選抜した。
上育476号：中生でいもち病抵抗性が強く、「ななつぼし」より多収である。

2) 生産環境グループ

(栽培環境)

おいしく、安全な米づくりを目指した水稲の栽培技術開発に関する研究および環境保全・土壌肥料に関する試験研究を担当している。

継続課題として「豪雨に対応するためのほ場の排水・保水機能活用手法の開発」では、水田における洪水を想定したポット試験により、冠水の程度、時期が水稲の生育、収量、品質に与える影響を検討した。「白色不透明粒の発生要因の解析と軽減技術」では、白色不透明粒に影響を与えると考えられる各種処理の影響を検討した。「水稲のリン酸減肥技術の開発」では各種有機物のリン肥効および局所施肥等によるリン酸減肥技術を検討した。戦略的イノベーション創造プログラムの一つである「農業気象情報の創出と作物生育・病害虫発生予察モデルに基づく作物栽培管理支援システムの開発」においては、窒素追肥可否判定システムと基肥窒素量調整支援システムの開発のためのデータセットの整備を行った。「多様なニーズに対応する米品種改良並びに栽培技術早期確立（第3期）」ではポテンシャルマップ作成のための収量予測システムの構築に取り組むとともに「そらゆき」の栽培マニュアル作成を目指した苗質・移植様式、窒素施肥法の検討を行った。「施肥管理による生食・加工用ばれいしょの増収技術の確立」においては品種に対する窒素施肥反応や分追肥技術を検討した。

他農試の栽培環境部門と連携し、「環境保全型有機質資源施用基準の設定調査」、「農地管理実態調査」、「整備事業等に係る土壌調査」を実施した。

農業資材試験では、水稲育苗培土「HB-1601」の成苗及び中苗に対する育苗適応性、成型育苗培土「新プラグエース」のレタス及びブロッコリーの育苗適応性を検討した。

水稲除草剤及び水稲生育調節剤の実用化試験では、除草剤のペ20剤の検討を行った。

(病虫)

病害虫関係に関する試験課題、新資材試験、発生予察事業を担当している。

本年度より開始した「コムギなまぐさ黒穂病の発生要因の解明とまん延防止策の緊急普及」では、次

年度以降のは場試験を実施するための汚染圃場の造成、北海道で発生している病原菌の再同定、厚膜胞子の発芽条件を明らかにし、道内での発生状況について調査するとともに、国内外の試験状況・対策について情報収集を行った。

継続課題として「スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立」では、重要害虫であるアブラムシ類に対して効果のある薬剤および散布時期について検討し、鱗翅目害虫の発生・被害実態について調査を行った。また「アズキ茎疫病菌のレース分布解明検定法の改良」では、道内各地より病土を採取しレース検定を行い、簡便な検定法について検討を行った。「実需者と生産者の期待に応える高品質で安定多収なアズキ品種の開発（茎疫病抵抗性検定試験）」では、十勝農試育成系統などについて、アズキ茎疫病抵抗性を判定した。「ねぎの簡易軟白栽培における菌核性病害の防除対策」では、簡易軟白方法、資材の違いによる発病の違いを検討し、土壤消毒の効果、地温が発病に及ぼす影響、有効な茎葉散布剤を検討した。「かぼちゃのつる枯病の発生生態解明と防除対策の確立」では降雨の時期、収穫後の湿度条件が発病に及ぼす影響、薬剤防除時期の検討を行った。

農業資材試験では、水稻のヒメトビウンカ（縞葉枯病）、コムギのムギキモグリバエ、タマネギのネギハモグリバエ、水稻のいもち病、ネギの黒腐菌核病、コムギのなまぐさ黒穂病、褐色雪腐病、眼紋病、カボチャのつる枯病、甘草の紫紋羽病に対して殺菌剤・殺虫剤の薬剤効果試験を行った。

3) 地域技術グループ

畑作物および園芸作物に関する奨励品種決定試験や栽培法の試験、並びに地域支援活動を担当している。

新品種関連では、馬鈴しょ「CP08」、てん菜「HT39」、二条大麦「札育2号」が北海道優良品種となった。栽培関係では、「飼料用とうもろこしの利用方法別安定栽培マップと新しい早晩性指標の開発」が指導参考事項となった。

「革新的技術導入による地域支援」課題としては「上川北部地帯における秋まき小麦「きたほなみ」の大豆畦間ばらまき栽培の実証」試験を行った。

地域支援活動としては、地域農業技術支援会議と

して地域要望課題の収集を行うとともに、普及センターの支援要請や部会活動などに対して支援を行った。

2. 各グループの試験研究の内容

1) 水稻グループ

A 水稻品種改良

水稻品種育成

(1) 水稻品種開発事業

(平成25～31年)

試験目的

多様なニーズに対応し、北海道稲作の発展に貢献する、省力栽培が可能な品種、耐冷・耐病性が優れる高品質・極良食味、高品質糯品種、並びに収量性を向上させた業務・加工用水稻品種の早期育成を目指す。

(2) 障害に強く高品質で安定生産可能な北海道米品種の開発促進

(平成26～31年)

1) 中期世代における極良食味系統育成の選抜強化

試験目的

極良食味米の生産性および食味・品質の安定向上を目的に耐冷性に優れる系統を選抜する。

(3) 水稻直播栽培用高位安定性品種の早期開発

(平成26～30年)

試験目的

水稻の中期世代の選抜強化により、水稻直播栽培用品種の開発を促進する。

受託試験

(1) 良質で安定生産可能なもち米品種の開発促進

(平成24～28年度)

試験目的

加工適性に優れ、耐冷性が強く、いもち病抵抗性に優れる良質なもち米品種を開発する。

(2) 多様なニーズに対応する米品種並びに栽培技術早期確立

(平成26～30年度)

1) ブランド米など極良食味品種の開発強化

試験目的

水稻の初期世代の選抜強化により、耐冷性、耐病性が向上し、食味の高位安定した品種を開発する。

B 奨励品種決定

基本調査

(1) 水稻奨励品種決定基本調査

供試系統および品種

「上育470号」、「上育471号」、「上育糯472号」、「上育473号」、「上育474号」、「上育糯475号」、「空育184号」、「空育185号」、「空育189号」、「空育190号」、「北海332号」。比較品種「ほしまる」他9品種。

(2) 水稻奨励品種決定現地調査

(昭和29年～継続)

供試系統および品種

「上育470号」、「上育471号」、「空育185号」、「上育糯472号」。比較品種「ほしまる」、「大地の星」、「ゆめぴりか」、「ななつぼし」、「きらら397」、「そらゆき」、「きたゆきもち」、「はくちょうもち」、「風の子もち」。

委託場所：上川管内名寄市、士別市、旭川市（永山）、旭川市（東旭川）、東川町、中富良野町、留萌管内・遠別町、小平町、オホーツク管内・北見市の合計9か所。

C 新優良品種普及促進

(1) 水稻新優良品種普及促進事業

(昭和42年～継続)

試験目的

新品種の速やかな普及を図るために有望系統の種子の増殖を行う。

D 共同研究

(1) 高度苗立ち性水稻直播栽培用品種の開発

(平成28～30年)

試験目的 水稻の初中期世代の選抜強化により、苗立ち性の優れる水稻直播栽培用品種の開発を促進する。

E 公募型研究

(1) 新たな簡易米飯評価法を用いた実需ニーズに対応した業務用多収品種の開発

(平成27～31年度)

試験目的

新たに開発した簡易米飯評価法を用いて、消費者が求める値頃感と美味しさを兼ね備えた、丼物と弁当用に適する業務用米多収品種を早期に開発する。

(2) 食物アレルギーを幅広く軽減する米の研究

(平成29～31年)

研究目的

共同研究相手先が分担する機機能性に関わる米成分およびイネの染色体領域を明らかにするため、染色体置換系統の農業形質に関する調査データおよび「ゆきひかり」等の玄米ならびに米粉を提供する。

F 国費受託

(1) ゲノム選抜育種による病害抵抗性品種開発の加速 I

(平成25～29年度)

試験目的

「きたゆきもち」にいもち病圃場抵抗性遺伝子 *p*i21** を導入した品種候補系統を連続戻し交配と MAS によって早期に開発する。

(2) 寒地におけるイネ圃場苗立ち性に関するQTLのマッピングと集積

(平成25～29年度)

試験目的

高度苗立ち性・低温発芽性を有する外国稲「Arroz Da Terra」(ADT) および「Italica Livorno」(IL) に由来する苗立ち性および低温発芽性に関するQTLについて、単独および集積効果の検証、QTLのマッピング、高度苗立ち系統の作出を行い、苗立ち性が優れる育種素材およびDNAマーカーを開発する。

2) 生産環境グループ

(栽培環境)

A 水稻栽培法改善試験

(1) 白色不透明粒の発生要因の解析と軽減技術の確立

(平成 26 ~ 28 年)

試験目的

水稻における白色不透明粒の発生実態と要因を明らかにするとともに、発生軽減技術を確立し、品質の高位安定化を図る。

(2) 多様なニーズに対応する米品種改良並びに栽培技術早期確立(第3期) 3) 業務用米の多収・省力技術の開発 (1) 業務用米の収量変動解析と多収栽培技術開発 ア) 気象・土壌条件による収量ポテンシャルの解析

(平成 26 ~ 30 年)

試験目的

業務用米の安定生産に向けて、気象・土壌条件から多収栽培が可能な地域を明らかにし、実収量とポテンシャル収量との対比により地域の収量制限要因を解析する。

(3) 多様なニーズに対応する米品種改良並びに栽培技術早期確立(第3期) 3) 業務用米の多収・省力技術の開発 (1) 業務用米の収量変動解析と多収栽培技術開発 イ) 生産性向上を目指した栽培技術の改善

(平成 26 ~ 30 年)

試験目的

新品種を含む業務用米の栽培特性を明らかにし、多収技術を開発すると共に、地域条件に対応した多収技術の総合化を図る。

(4) 情報・通信・制御の連携機能を活用した農作業システムの自動化・知能化による省力・高品質生産技術の開発(旧課題名: 農業気象情報の創出と作物生育・病害虫発生予測モデルに基づく作物栽培管理支援システムの開発) 4. 作物生育・病害虫モデルを活用した気象対応型栽培技術の開発(3) 生育予測モデルを活用した寒冷地水稻の気象対応型栽培技術の開発

(平成 26 ~ 30 年)

試験目的

窒素追肥の可否判定および基肥窒素量調整支援システムを開発し、「農業気象災害早期警戒・栽培管

理支援システム」上に実装し、気象対応型栽培技術を実証する。

(5) 豪雨に対応するためのほ場の排水・保水機能活用手法の開発 1) 水田の冠水被害を緩和するほ場施設改善・管理技術の開発 (2) 北海道における冠水による水稻減収尺度の解明とほ場施設改善・管理技術の開発

(平成 27 ~ 31 年)

試験目的

冠水による水稻の減収尺度を解明するとともに、水稻減収を抑えつつ水田の貯留機能による防災効果発揮のための冠水許容条件を明らかにする。

B 畑作物栽培法改善

(1) 施肥管理による生食・加工用ばれいしょの増収技術

(平成 26 ~ 28 年)

試験目的

高収量・高品質な生食・加工用ばれいしょを生産するために、品種の窒素施肥反応を明らかにし、分追肥技術による増収技術を確立する。

C 土壌改良・農業土木試験

(1) 環境保全型有機質資源施用基準の設定調査

(平成 10 年~継続)

試験目的

農業の基盤である土壌環境の経年的変化を総合的に把握し、適切な土壌管理のための基礎資料を得る。

(2) 農地土壌温室効果ガス排出算定基礎調査事業(農地管理実態調査)

(平成 20 ~ 32 年)

試験目的

農家ほ場を対象とし土壌炭素蓄積量及び有機物施用、作物残渣の鋤込み等の土壌炭素の維持蓄積に寄与すると考えられる農地管理を調査する。

(3) 農業農村整備事業等に係る土壌調査

(昭和 40 年~継続)

調査目的

道営土地改良事業計画地区の土壌断面及び理化学

性を調査し、改良対策と工種導入時の留意点を示す。
また、整備事業の効果を把握するため、整備による
土壌改良効果と作物収量の関連を検討する。

D クリーン・有機農業

(1) 水稲のリン酸減肥技術の開発

(平成26～28年)

試験目的

水稲減化学肥料栽培（有機質肥料による化学肥料窒素代替率50%）において、収量・品質の高位安定化を図るため、有機質肥料を効率的に利用できる肥培管理方法を明らかにする。

E 農業資材試験

(1) 水稲除草剤及び水稲生育調節剤の実用化試験

(昭和45年～継続)

試験目的

一発処理剤5点、中後期剤5点、直播栽培剤10点について、実用化試験を行う。

(2) 水稲用育苗培土「HB-1601」の育苗適応性

(平成28年)

試験目的

水稲育苗用培土「HB-1601」の成苗及び中苗に対する育苗適応性について検討する。

(3) 成型育苗培土「新プラグエース」の育苗適応性

(平成28年)

試験目的

レタス及びブロッコリーに対するセル成型育苗培土「新プラグエース」の適応性について検討する。

(病虫)

A 病害虫試験

(1) 突発および新発生病害虫の診断試験

(昭和50年～継続)

試験目的

突発的に発生する病害虫による被害を阻止するため、それらの診断を行うとともに、道内で新たに発生した病害虫の情報を記録し蓄積する。

(2) 病害虫発生予察調査

(昭和16年～継続)

試験目的

植物防疫法にもとづいて、病害虫の発生予察法の確立を図るとともに、発生予察情報を関係機関に提供して病害虫防除の適正を図る。

(3) コムギなまぐさ黒穂病の発生要因の解明とまん延防止策の緊急普及

(平成28年)

試験目的

今後本病の対策試験を実施するための汚染圃場を造成する。また、本病に対する基礎的な知見を得るため、北海道で発生している病原菌の再同定、厚膜胞子の発芽条件を明らかにするとともに北海道農政部と連携して発生地域の情報を収集して多発要因の解析を行う。

B クリーン・有機農業

(1) スイートコーン害虫に対する効率的防除体系の確立

(平成27～29年)

試験目的

害虫による被害が大きいスイートコーンの8・9月どり栽培において、被害実態を明らかにし、効率的な防除体系を確立する。

(2) ねぎの簡易軟白栽培における菌核性病害の防除対策

(平成25～28年)

試験目的

簡易軟白ねぎの安定生産に向け、菌核性病害の防除対策を確立する。

(3) かぼちゃのつる枯病の発生生態解明と防除対策の確立

(平成26～28年)

試験目的

かぼちゃの果実腐敗の原因となっているつる枯病の発生生態を解明し、発生生態に基づいた耕種的防除法、防除時期および防除薬剤を明らかにすることによって防除技術を確立する。

C 品種開発促進

(1) 実需者と生産者の期待に応える高品質で安定多収なアズキ品種の開発

2. 安定生産向上のための障害耐性検定試験

(3) 茎疫病抵抗性検定試験

(平成26～30年)

試験目的

小豆の有望系統および育成系統のアズキ茎疫病レース3およびレース4に対する抵抗性を明らかにする。

(2) アズキ茎疫病菌のレース分布解明と検定法の改良

(平成27～29年)

試験目的

道内における現在のアズキ茎疫病菌のレース分布を明らかにする。また、今後の茎疫病研究や育種に有用となる新たなレース検定法を確立する。

D 農業資材試験

(1) 新農業資材の実用化試験

試験目的

各種病害虫に対する新規農薬（殺菌剤19点、殺虫剤8点）の防除効果を検討し、その実用化を図る。

3) 地域技術グループ

A 畑作物品種改良試験

地域適応性検定試験

(1) 小豆育成系統地域適応性検定試験

(昭和34年～継続)

試験目的

有望系統について、地域適応性を明らかにして、優良品種決定の資とする。

(2) ばれいしょ育成系統地域適応性検定試験

(平成19年～継続)

試験目的

有望系統について、地域適応性を明らかにして、優良品種決定の資とする。

地域適応性検定試験（現地委託分）

(3) 麦類育成系統地域適応性検定試験

(平成15年～継続)

試験目的

育成された有望系統について、生産力その他諸特性を調査し、地域における適応性を検討する。（北農研・北見農試育成の秋まき小麦および北見農試・ホクレン育成の春まき小麦系統を検定）

(4) 北海道に適応した障害や病害に強く高品質な小麦品種の育成（農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業）

(平成26年～30年)

試験目的

多雪で越冬条件が厳しく、融雪が遅く登熟期が比較的高温で生育期間が短い道北地域において、中期世代育成系統の地域適応性を明らかにするとともに、有望系統の栽培特性を評価する。

豆類生産振興対策

(1) 道央・道南地域に適した複合病害抵抗性、高品質、多収小豆品種の開発強化

(平成26年～28年)

試験目的

道央、道南地域における小豆の生産量を向上させ、生産を安定化させるため、茎疫病圃場抵抗性を含めた複合病害抵抗性を有する粒色が淡く、大粒で加工適性の高い高品質で多収な小豆有望系統を選抜する。

(2) アズキ茎疫病圃場抵抗性のマーカー開発とDNAマーカー選抜による小豆重要土壌病害抵抗性選抜の効率化

(平成26年～28年)

試験目的

茎疫病圃場抵抗性を選抜できるDNAマーカーを開発する。また、落葉病抵抗性および萎凋病抵抗性マーカーを利用することにより、小豆の重要土壌病害複合病害抵抗性選抜を効率化する。

奨励品種決定基本調査

(1) 菜豆奨励品種決定調査

(昭和46年～継続)

試験目的

有望系統の現地における適応性を検定する。

(2) ばれいしょ奨励品種決定調査

(昭和33年～継続)

試験目的

有望系統の上川地方における地域適応性を検定する。

(3) 麦類奨励品種決定基本調査

(昭和34年～継続)

試験目的

有望系統について、特性および地域の適応性を検討し、優良品種決定の資とする。

(4) 大豆奨励品種決定基本調査

(昭和33年～継続)

試験目的

有望系統について、特性および地域の適応性を検討し、優良品種決定の資とする。

奨励品種決定現地調査

(4) 麦類奨励品種決定現地調査

(昭和33年～継続)

試験目的

有望系統の現地での適応性を検定する(北農研センター・北見農試育成の秋まき小麦系統および民間育成の二条大麦系統を検定)。

(5) 大豆奨励品種決定現地調査

(昭和33年～継続)

試験目的

有望系統の現地での適応性を検定する。

受託試験

(1) 春まき小麦の品種選定試験

(平成28年～32年)

試験目的

ホクレンで育成された系統について北海道の春まき小麦栽培地帯での適応性を評価するとともに優良品種決定の資とする。

(2) 新たな醸造特性を持った、北海道向けの高品質ビール大麦品種の開発と安定・多収栽培法の確立(農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業)

(平成28～32年)

試験目的

サッポロビール(株)で育成したビール大麦の有望系統について、上川管内における適応性検定試験を実施し、優良品種決定の資とする。

(3) 気象変動に対応した高品質で安定生産可能な道産小麦の開発促進

(平成28年～30年)

試験目的

積雪期間が長い上川農試において、雪腐褐色小粒菌核病菌の接種を行い発病を助長した環境条件下で、北見農試で育成した秋まき小麦系統について、雪腐褐色小粒菌核病に対する抵抗性を検定し、品種育成の資とする。

(4) 馬鈴しょ輸入品種等選定試験

(平成28年～32年)

試験目的

ばれいしょの輸入品種等について、当地方における適応性を検討する。

(5) てん菜輸入品種検定試験

(平成26年～30年)

試験目的

てん菜輸入品種(系統)の特性および地域適応性を検定する。

(6) 小麦育種研究に係る系統適応性・特性検定試験

(平成28年)

試験目的

北農研センター育成系統について、地域における特性(系統適応性および雪腐褐色小粒菌核病抵抗性である耐雪性)を評価する。

B 畑作物栽培法改善に関する試験

(1) 北海道に適応した障害や病害に強く高品質な小麦品種の育成(農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業)

(平成26年～30年)

試験目的

多雪で越冬条件が厳しく、融雪が遅く登熟期が比較的高温で生育期間が短い道北地域において、中期

世代育成系統の地域適応性を明らかにするとともに、有望系統の栽培特性を評価する。

C 野菜品種改良に関する試験

野菜の地域適応検定試験

(1) いちご地域適応性検定

(昭和63年～)

試験目的

花・野菜技術センター育成系統の地域適応性を検討する。

(2) たまねぎ地域適応性検定

(平成14年～)

試験目的

民間および公的機関における育成系統の地域適応性を検討する。

D 野菜栽培法改善試験

(1) 冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系の確立

(平成26～28年)

試験目的

冬季の北海道において道内各地の気象条件に対応した無加温ハウス生産流通体系を確立する。

(2) きゅうりの無加温半促成長期どり作型における安定栽培技術の確立

(平成27年～29年)

試験目的

無加温半促成作型において、栽培期間の後半の収量、規格内率が高い整枝法を確立するとともに、道内の主要品種および近年、導入が進んでいる耐病性品種への適応性を示す。

(3) 新規集放熱資材を用いた葉菜類の厳冬期無加温栽培技術の開発

(平成28年)

試験目的

道内広域に対応した葉菜類の厳冬期無加温栽培技術の確立に向けて、多雪寒冷で日射量が比較的少ない条件下において新規素材から作成された樹脂管が厳冬期の無加温パイプハウス内の保温性向上に寄与

できるかどうか調査する。

E 農業資材試験

(1) 畑作物除草剤・生育調節剤の実用化試験

(平成28年)

試験目的

甘草に対する除草剤「AC-263」の北海道における実用性を確認する。

(2) 園芸作物除草剤・生育調節剤の実用化試験

(平成28年)

試験目的

ニンジンに対する除草剤「SL-122」およびキャベツに対する除草剤「NP-55」の北海道における実用性を確認する。

F 革新的技術導入による地域支援

(1) 上川北部地帯における秋まき小麦「きたほなみ」の大豆畦間ばらまき栽培の実証

(平成27年～28年)

協力分担：上川農業改良普及センター士別支所

試験目的

上川北部地域で中央農試で開発された秋まき小麦「きたほなみ」の大豆畦間ばらまき栽培技術を実証する。

G 地域支援活動等

(1) 普及指導員を対象とする研修

普及指導員の普及指導能力向上のために以下の研修に協力または支援した。

①新技術伝達研修(上川、留萌)

2月7日(上川総合振興局)、2月8日(留萌振興局)、に普及センター職員を対象にして開催。農業試験会議の主な成果について現地への迅速な普及を図る目的で実施した。

(2) 道北地域農業技術センター等連絡会議

上川、留萌、宗谷総合振興局(振興局)管内における自治体や民間企業などが設置した調査研究・研修機関の情報交換の場として、9月に現地研修会(富良野市、全道NATECと共催)、10月に土壌診断

勉強会（上川農試）、2月に地域情報交換会並びに定

期総会（上川農試）を開催した。

IV 試験研究の成果と普及

1. 普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項等

1) 普及奨励事項

(1) ばれいしょ「CP08」（北見農試作物育種 G、生産環境 G、上川農試地域技術 G、中央農試予察診断 G、十勝農試地域技術 G、北農研畑作基盤研究領域）

ジャガイモシストセンチュウ抵抗性を持つ加工用系統である。枯ちよう期は「スノーデン」より早く、でん粉価が「スノーデン」より高い。長期貯蔵後のポテトチップ加工適性が優れる。

「スノーデン」の一部に置き換えて普及する。

(2) てん菜「HT39」（北見農試地域技術 G、十勝農試地域技術 G、中央農試作物 G、上川農試地域技術 G、北海道てん菜協会）

高糖分の「クリスター」と比較して、根中糖分が並で、根重がやや多く、糖量がやや多い。耐病性はほぼ「クリスター」並である。

「クリスター」に置き換えて普及する。

(3) 二条大麦「札育2号」（北見農試麦類 G、上川農試地域技術 G、サッポロビール株式会社）

「りょうふう」にリポキシゲナーゼ欠失の形質を導入した準同質遺伝子系統である。農業特性、麦芽品質および醸造特性は同品種並で、貯蔵中のビールの総合老化度が低い。

「りょうふう」の大部分に置き換えて普及する。

2) 普及推進事項

(1) 生食・加工用ばれいしょ品種の窒素施肥反応と土壌診断に基づく窒素施肥対応（十勝農試生産環境 G、上川農試生産環境 G）

生食および加工用ばれいしょの品種毎の窒素施肥反応の違いを明らかにし、トヨシロ等では基肥の増肥が最も増収効果が高いが、メーカーや男爵薯等増肥すべきでない品種があることも明らかとなった。さらに熱水抽出性窒素と前作物の違いに応じた窒素

施肥対応を確立した。

3) 指導参考事項

(1) 水稻栽培における施用有機物のリン酸肥効評価（上川農試生産環境 G）

有機物施用時の粗玄米重、リン酸吸収量は化肥区に対しておおむね 80～100%の値を示した。このことから、有機物施用時は含まれるリン酸含量の8割程度は減肥可能と推定された。稲わらを施用した区は土壌へのリン酸の消失は早かったが、根の生育を阻害するため初期生育が劣った。

(2) 水稻品種「そらゆき」の多収栽培指針（中央農試水田農業 G、上川農試生産環境 G）

「そらゆき」の目標収量を 650kg/10a に設定した。これを達するための基肥窒素施肥量は施肥標準量+3kgN/10a を上限とし、追肥診断基準を土壌診断に加えて 幼穂形成期茎数 500 本/m²未満 と定めた。また、収穫適期の目安は出穂期後日平均気温積算値 1100℃とした。以上をとりまとめて、「そらゆき」の多収栽培指針を策定した。

(3) 北海道米の白未熟粒・死米の発生要因と軽減方策（上川農試生産環境 G）

北海道米の白未熟粒と死米の発生には品種間差があり、m²当たり籾数の過剰、穂揃い性の不良、1 籾当たり登熟温度の不足で助長される。これらは窒素施肥量の遵守、深水管理、健苗育成、栽植密度の適正化などの従来の基本栽培技術で軽減できる。

(4) ねぎの簡易軟白栽培における黒腐菌核病の防除対策（上川農試生産環境 G）

上川地域の簡易軟白ねぎで発生する菌核性病害は黒腐菌核病が主体で、本病は地温 15℃以下の条件で激しく発病し、定植後約 1 ヶ月で症状が明確になる。耕種的防除としてグリーンマルチ等による地温上昇が有効である。ペンチオピラド水和剤 F(20%) の株元灌注は高い効果が期待できるが、不十分な場合は土壌消毒を併用する。

(5) 飼料用とうもろこしの利用方法別安定栽培マップと新しい早晩性指標の開発（畜試飼料環境 G、根釧農試飼料環境 G、中央農試環境保全 G、上川農試地域技術 G、北見農試作物育種 G）

代表的な早晩性区分の 4 品種について生育・登熟と気象から生育モデルを作成し、任意の地域における安定栽培の可能性をパソコンで閲覧できるシステム

を開発した。さらに、従来は種苗会社毎の判断で表示されていた品種の早晩性を統一的に比較できる指標を開発した。これらは品種選択・安定栽培のための指針として活用される。

4) 研究参考事項 なし

2. 論文ならびに資料

1) 研究論文、試験成績

著者名(所属)	論文名	学会誌名	号数	ページ	発行年
木下乃梨子(帯広畜産大学)、高野翔(帯広畜産大学)、下田直美(帯広畜産大学)、高牟禮逸郎(北海道大)、佐藤 毅(上川農試)、加藤清明(帯広畜産大学)	Development of genome-wide PCR-based markers from insertion, deletion and single nucleotide polymorphisms for closely related Japanese rice cultivars and identification of QTLs for the appearance of cooked rice and polished rice	Breeding Science	66	742-751	2016
田中英彦(上川農試)・山崎信弘(元上川農試)・天野高久(元上川農試)	湛水直播水稻における低温苗立ち性の品種間差異と初期伸長性の関係	日本作物学会紀事	85	162-167	2016
田中英彦(上川農試)・田中文夫(元上川農試)・山崎信弘(元上川農試)	湛水直播水稻における土壌還元処理とPythium属菌接種による苗立ち率低下の品種間差異	日本作物学会紀事	85	168-172	2016
田中英彦(上川農試)・山崎信弘(元上川農試)	異なる生育時期の冷水掛け流し処理が湛水直播水稻の出芽と苗立ちに及ぼす影響	日本作物学会紀事	85	241-245	2016
田中英彦(上川農試)・古原洋(中央農試)・今野一男(元上川農試)	北海道の湛水直播水稻における出芽と苗立ちに及ぼす土壌還元の影響と播種直後からの落水の効果	日本作物学会紀事	85	253-259	2016
田中英彦(上川農試)・丹野久(道南農試)	北海道での水稻湛水直播栽培の落水出芽法における播種後の気温による最適入水日の推定	日本作物学会紀事	85	282-287	2016
田中英彦(上川農試)	北海道における水稻の冷害とその対策	日本農業気象学会北海道支部会誌	68	49-56	2016
阿部珠代(中央農試)・小宮山誠一(中央農試)・小林聡(十勝農試)・西村努(上川農試)・神野裕信(北見農試)	マイクロドウラボによる小麦粉生地物性の少量・簡易	日本作物学会紀事	85	435-442	2016
地子 立(上川地域)	道北地域でのコマツナの厳冬期生産に向けた播種期および被覆資材の検討	園芸学研究	第15巻別冊2	204	2016
地子 立(上川地域)	比布町の厳冬期無加温パイプハウスにおける多重フィルム被覆の保温効果	北海道園芸談話会報	50	50-51	2017
小野寺鶴将(北見農試)・古川勝弘(上川農試)・奥山昌隆(北見農試)・真鍋照彦(網走農改清里)・伊藤舞(網走農改清里)・齊藤克史(網走農改清里)	ジャガイモシストセンチュウ発生ほ場における密度推定のための省力的な土壌サンプリング法	北農	84(1)	31-35	2017
熊谷聡(上川農試)・長濱恵(十勝農試)・小倉玲奈(中央農試)・阪口雅巳(中央農試)・佐々木亮(中央農試)・五十嵐俊成(食加研)・柳原哲司(食加研)	水稻有機栽培における苗立枯防除のためのpH矯正と追肥による育苗技術	北農	84(1)	36-42	2017
松中照夫・中辻敏朗・大塚省吾・木曾誠二	重年度草地の更新時における土地改良と施肥大量施与の牧草生産から見た評価	日本草地学会誌	62(4)	189-198	2016

2) 口頭・ポスター発表

発表者名(所属)	発表名	発表学会等名	同左要旨巻号頁	開催地	開催期間(月日)	
地子立(上川地域)	道北地域でのコマツナの越冬生産に向けた播種期および被覆資材の検討	園芸学会平成28年度秋季大会	園芸学研究12(別2):204	名古屋	9月10日	9月11日
岡元英樹(上川生産)、早川文乃(網走農改)、岡一義(宗谷農改)、大城敬二(農政道北支場駐在)、笹木正志(天北地域)、松原哲也(天北地域)	堆肥を「ツボ置き」した更新草地における初期の草種構成	第5回北海道畜産草地学会	北海道畜産草地学会報4(2):30	新得町	9月10日	9月12日
足利和紀(北見生産)、岡元英樹(上川生産)、田中常喜(北見生産)、藤井弘毅(北見生産)	チモシーの高水分サイレージ調製適正に関する選抜指標の探索	第5回北海道畜産草地学会	北海道畜産草地学会報4(2):31	新得町	9月10日	9月12日
道満 剛平(上川農試)、中道 浩司(中央農試)、平山 裕治(上川農試)、柳原哲司(中央農試)、佐藤 毅(上川農試)	良食味米の炊飯ポテンシャルを支配する要因の探索	日本育種学会第130回講演会	育種学研究18(別2):190	鳥取県	9月24日	9月26日
鎌田貴大(帯広畜産大学)、中根わかな(帯広畜産大学)、西村努(上川農試)、森正彦(帯広畜産大学)、三浦秀穂(帯広畜産大学)	秋まき穂発芽極難コムギにおける種子休眠性QTLsの検出	日本育種学会第130回講演会	育種学研究18(別2):226	鳥取県	9月24日	9月26日
岩田夏子(ホクレン)、西村努(上川農試)、平山裕治(上川農試)、佐藤毅(上川農試)、梶田淳史(ホクレン)	寒地におけるイネ圃場立ち性に関するQTLの効果検証	日本育種学会第130回講演会	育種学研究18(別2):20	鳥取県	9月24日	9月26日
丹野久(道南農試)・木下雅文(上川農試)・佐藤毅(上川農試)	北海道のもち米品質における年次間と地域間差異およびその発生要因	日本水稲品質・食味研究会第8回講演会	日本水稲品質・食味研究会第8号:32-33	宮崎市	11月12日	11月12日
岡元英樹(上川生産)、唐星児(北見生産)、熊谷 聡(上川生産)、藤倉潤治(上川生産)	局所施肥によるリン酸減肥は水稲栽培においても可能か?	日本土壌肥科学会北海道支部2016年度秋季大会	講演要旨巻:15	帯広市	11月29日	11月29日
三浦周・藤倉潤治(上川環境)、濱寄孝弘・廣田知良(北農研センタ)、丹野久(道南農試)	水稲出穂晩限メッシュ図の作成と気象変動対応型栽培への活用	日本土壌肥科学会北海道支部2016年度秋季大会	講演要旨巻:16	帯広市	11月29日	11月29日
柏木純一(北大)、安萍(鳥取大)、岡元英樹(上川環境)、薛嫻(中国科学院)、黄翠華(中国科学院)、王涛(中国科学院)、張金林(蘭州大学)、崎原麗霞(鳥取大学)	中国極乾燥地民勤オアシスにおける環境保全型農業の生産性向上に関する研究	鳥取大学乾燥地研究センター平成28年度共同研究発表会	講演要旨巻:10~12	鳥取市	12月3日	12月4日
地子立(上川地域)	比布町の越冬期無加温パイプハウスにおける多重フィルム被覆の保温効果	北海道園芸研究談話会平成28年度研究発表会	北海道園芸研究談話会報第50号:50-51	札幌市	12月5日	
岡元英樹(上川環境)、笹木正志(天北地域)、松原哲也(天北地域)、増子孝義(東京農大)、大橋優二(中央水田)	窒素・カリ施肥がチモシーの飼料成分と糖含量に及ぼす影響	2017年度日本草地学会弘前大会	日本草地学会誌63(別):82	弘前市	3月20日	3月22日
Hideki Okamoto(上川環境)、Cuihua Huang(中国科学院)、Xian Xue(中国科学院)、Jin-Lin Zhang(蘭州大学)、Luo Jun(中国科学院)、Xin-Pei Lu(蘭州大学)、Jun-ichi Kashiwagi(北大) and Ping An(鳥取大)	Alfalfa (<i>Medicago sativa</i> L.) production and establishment in Minqin Oasis, Gansu, China. (日本語名: 中華人民共和国甘粛省民勤オアシスにおけるアルファルファ栽培と更新草地の調査)	2017年度日本草地学会弘前大会	日本草地学会誌63(別):106	弘前市	3月20日	3月22日
有田敬俊(天北地域)、二門 世(天北地域)、岡元英樹(上川環境)、前田浩貴(天北普及室)、大城敬二(天北普及室)、岡一義(宗谷農改)、吉川 恵哉(日高農改)、安達 美江子(ホクレン)、竹田 芳彦(ホクレン)	混播割合と収穫回数異なるオーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播草地の草種構成の推移	2017年度日本草地学会弘前大会	日本草地学会誌63(別):25	弘前市	3月20日	3月22日
H. Okamoto(上川環境)、K. Nishiwaki(農研機構)、S. K. Rao(ジャワハルラール・ネルー農業大学)、S. B. Nahatkar(ジャワハルラール・ネルー農業大学)、S. K. Sharma(インドール農業単科大学)	We have demonstrated the drastic improvement of soybean production in Madhya Pradesh, India. (日本語名: インド共和国マディヤ・プラデシュ州におけるダイズ収量改善の実証)	日本作物学会第243回講演会	日本作物学会第243回講演会要旨巻:62	東京都文京区	3月29日	3月30日
北海道向け良食味水稲品種育成グループ(代表者: 佐藤 毅)	低アミロース遺伝資源を利用した北海道向け良食味水稲品種の育成	日本育種学会第131回講演会	育種学研究19(別1):2,3	名古屋市	3月29日	3月30日
西村努(上川水稲、岩手連大)・鎌田貴大(帯畜大)・中根わかな(帯畜大)・神野裕信(北見麦類)・中道浩司(農研企画)・阿部珠代(中央品質)・梶田淳史(ホクレン)・大西一光(帯畜大)・森正彦(帯畜大)・三浦秀穂(帯畜大)	秋まき穂発芽性極難コムギに寄与する新たな穂発芽耐性QTLの組合せ効果	日本育種学会第131回講演会	育種学研究19(別1):240	名古屋市	3月29日	3月30日
道満 剛平、西村 努、木内 均、平山 裕治、佐藤 毅(上川水稲)	根系評価法の簡便化と北海道水稲新旧品種群の根系分布	日本育種学会第131回講演会	育種学研究19(別2):135	名古屋市	3月29日	3月30日
竹澤広基・若林侑・柏木純一・中島大賢・市川伸次(北大)、西村努・道満剛平(上川水稲)、木下雅文(中央水田)	北海道で育成された水稲多収品種における多収要因の解析	日本作物学会第243回講演会	日本作物学会第243回講演会要旨巻(2017):40	東京都文京区	3月29日	3月30日
木下乃梨子(帯畜大)、加藤雅幸(帯畜大)、小矢崎 慧(北大)、川島拓也(北大)、西村 努(上川水稲、岩手連大)、平山裕治(上川水稲)、高半禮逸朗(北大)、佐藤 毅(上川水稲)、加藤 雅幸(帯畜大)	30年を隔てた北海道の新旧イネ品種間の交雑後代で見いだされる食味と品質ならびに収量関連形質のQTLの特定	日本育種学会第131回講演会	育種学研究19(別1):251	名古屋市	3月29日	3月30日

3) 専門雑誌、著書・資料

(雑誌)

著者名(所属)	公表・成果名	雑誌名	号数	ページ		発行年
藤田 涼平 (上川地域)	でん粉原料用馬鈴しょシストセンチュウ抵抗性新品種「コナヒメ」	ニューカントリー	5月号	48	49	2016
地子 立 (上川地域)	農学校1年1組 トマトの時間 新しい栽培技術①	ニューカントリー	11月号	54	55	2016
熊谷 聡 (上川環境)	北海道米の白未熟粒・死米の発生要因と軽減方策	上川の米作り	41号	2	5	2017

(書籍)

著者名	書籍名(記事名)	出版社名	ISBN	ページ		発行年
川岸康司	北海道の施設野菜(植物工場とは)	北海道協同組合通信社	978-4-86453-043-9	186	189	2015
地子 立	北海道の施設野菜(高糖度トマト)	北海道協同組合通信社	978-4-86453-043-9	101	103	2015
地子 立	北海道の施設野菜(ホワイトアスパラガス)	北海道協同組合通信社	978-4-86453-043-9	171	173	2015
菅原 章人	北海道の施設野菜(軟白みつば)	北海道協同組合通信社	978-4-86453-043-9	136	138	2015
菅原 章人	北海道の施設野菜(測定機器)	北海道協同組合通信社	978-4-86453-043-9	211	214	2015

4) 新聞等記事

著者名	公表・成果名	新聞名	発行日
沢口敦史	道東地域における秋まき小麦「きたほなみ」の高品質安定栽培法	農業共済新聞	8月31日
藤田涼平	でん粉原料用馬鈴しょ新品種「コナヒメ」～ジャガイモシストセンチュウ抵抗性品種作付100%を目指して～	農業共済新聞	10月26日
藤根 統	水稲温湯消毒のポイント	農業共済新聞	3月22日

3. 印刷刊行物

名 称	発行年月日	頁	配 布 等
平成28年度上川農業試験場新技術発表会要旨	2017年2月20日	18	来場者配付
平成27年度上川農業試験場年報	2016年11月2日	59	HP公開

4. 実務研修

(自己開催の研修会・講習会)

名 称	開催日	開催地	参加者数	対象者
平成28年度北海道土壌肥料協議会現地検討会	6/16～17	和寒町、名寄市、剣淵町、旭川市、愛別町、比布町	45	北海道土壌肥料協議会会員(道総研、北農研、肥料メーカー等職員)
上川水稲直播夏季研修会	7/11	旭川市、東川町、比布町	92	生産者を主体として、現地農家圃場の視察を中心に実施した。
道北NATEC現地検討会(全道NATECと共催)	9/8～9	富良野市	62	地域農業振興センター職員、JA職員
道北NATEC土壌診断勉強会	10/18	比布町	55	地域農業振興センター職員、JA職員
上川水稲直播ネットワーク冬期情報交換会	12/2	旭川市	120	生産生産者、普及センター、JA職員
道北NATEC地域情報交換会	2/28	比布町	36	地域農業振興センター職員、JA職員

(受け入れ研修)

研 修 者 名	受入月日	—	人数	研修対象
普及指導員高度専門技術研修(植物保護)前期	7/4～8	—	1	普及指導員
普及指導員高度専門技術研修(植物保護)後期	8/1～5	—	1	普及指導員

5. 技術指導及び普及

名 称	相手方	月日	合同実施した場合、機関名
草地施肥試験成績のとりまとめ法について	宗谷農業改良普及センター宗谷北部支所	4月4日	
草地雑草対策について	ホクレン	4月6日	
水稻栽培法について	比布町	4月7日	
レタスのかびについて（べと病）	片倉コープアグリ(株)	4月7日	
草地施肥法について	東京農業大学	4月13日	
西洋なしの催芽期，鱗片脱落期，発芽期の判定方法について	留萌農業改良普及センター南留萌支所	4月13日	
土壌関係試験成績について	(株)オホーツク大地・旭川	4月15日	
土壌の理化学性の経年変化について	(株)オホーツク大地・旭川営業所	4月15日	
野菜ハウスの環境測定装置の活用と環境改善技術支援	上川農業改良普及センター	4月15日	上川農試技術普及室
トマトの黄化枯凋（株腐病）	上川農業改良普及センター大雪支所	4月20日	上川農試技術普及室
加工用りんご剪定技術指導	上川農業改良普及センター	4月20日	
馬鈴しょ塊茎の黒変・内部腐敗（指斑病、凍害、打撲）	宗谷農業改良普及センター	4月20日	上川農試技術普及室
カボチャの生育異常	上川農業改良普及センター	4月21日	上川農試技術普及室
水稻開花の撮影について	NHK札幌放送局放送部地域情報チーフディレクター	4月21日	
初冬まき春小麦の生育異常・枯死	上川農業改良普及センター北部支所	4月25日	上川農試技術普及室
四季なり性いちごの食味について	ホクレン野菜果実花き課	4月27日	
水稻の追肥について	美瑛市農業協同組合	5月2日	
高糖度トマトのハモグリバエ（ナスハモグリバエ）	旭川市生産者	5月6日	上川農試技術普及室
草地更新にあたっての土壌採取法について	上川農業改良普及センター上川北部支所	5月9日	
秋まき小麦の黄化・葉先枯れ（縞萎縮病、萎縮病、他要因）	上川農業改良普及センター大雪支所	5月10日	上川農試技術普及室、中央農試予察診断G
ブルーベリー剪定技術指導	上川農業改良普及センター	5月11日	
スイカ葉の小斑点（菌核病）	上川農業改良普及センター	5月11日	上川農試技術普及室
醸造用ぶどう栽培技術指導	美瑛町	5月13日	
秋まき小麦の黄化・葉先枯れ（縞萎縮病）	上川農業改良普及センター	5月13日	上川農試技術普及室、中央農試予察診断G
冬季野菜栽培導入に伴う栽培支援	留萌農業改良普及センター	5月13日	上川農試技術普及室
フルーツトマトの黄化・維管束褐変	上川農業改良普及センター北部支所	5月13日	上川農試技術普及室
ピーマン葉の萎縮（ネギアザミウマ）	留萌農業改良普及センター南留萌支所	5月16日	上川農試技術普及室
初冬まき小麦施肥技術指導	上川農業改良普及センター	5月17日	
メロン葉の斑点・えそ症状	上川農業改良普及センター	5月30日	上川農試技術普及室
秋まき小麦の施肥について	美瑛町農業協同組合	5月31日	
トマト苗の食害について	旭川市生産者	5月31日	

高糖度トマトの栽培について	日本郵便北海道支社	6月1日	
PPV発生状況調査	深川市生産者	6月3日	北海道病害虫防除所， 空知総合振興局，空知 普及センター，中央農 業試験場
きゅうりの障害について	旭川市 佐藤氏	6月8日	
水稻の生育異常の要因について	上川農業改良普及センター	6月9日	
てんさいの生育不良対応について	美瑛町農業協同組合	6月13日	
トマト下葉の褐変・黄化、矮化（かいよう病）	上川農業改良普及センター	6月13日	上川農試技術普及室
カボチャ苗の生育不良	上川農業改良普及センター士別支所	6月15日	上川農試技術普及室
レアフルについて	北包連株式会社	6月15日	
ナシ枝枯細菌病発生状況調査	旭川市、増毛町生産者	6月16～ 17日	北海道病害虫防除所， 上川総合振興局，留萌 振興局，上川普及セン ター，留萌普及セン ター，中央農業試験場
トルコギキョウの根の褐変・枯死	上川農業改良普及センター名寄支所	6月21日	上川農試技術普及室
牧草栽培法について	農業環境技術研究所	6月22日	
トマトの黄化症状（Mn欠乏）	上川農業改良普及センター北部支所	6月22日	上川農試技術普及室
メロンの萎凋	留萌農業改良普及センター	6月23日	上川農試技術普及室
インゲンの黄化・枯死（アフアノミセス根腐病）	上川農業改良普及センター士別支所	6月24日	上川農試技術普及室
いちご「けんたろう」の栽植密度と糖度	前八紘学園 佐々木氏	6月24日	
草種改善法について	宗谷農業改良普及センター	6月28日	
いちご「けんたろう」の試験栽培支援	宗谷農業改良普及センター	6月29～ 30日	上川農試技術普及室
ミニトマトの枯凋（半身萎ちょう病）	上川農業改良普及センター士別支所	7月1日	上川農試技術普及室
北海道米の特徴（特にゆめぴりか）について	雑誌ロケーションジャパン	7月5日	
「はくちょうもち」と本州の糯品種の違い	NHK札幌放送局放送部番組制作ディ レクター	7月5日	
カボチャの生育不良	上川農業改良普及センター北部支所	7月5日	上川農試技術普及室
秋まき小麦の黒穂（なまぐさ黒穂）	上川農業改良普及センター	7月6日	上川農試技術普及室
トマトの萎れ（かいよう病）	上川農業改良普及センター	7月8日	上川農試技術普及室
アズキの枯死（茎疫病）	留萌農業改良普及センター	7月8日	上川農試技術普及室
アズキ葉の病斑（さび病）	留萌農業改良普及センター	7月8日	上川農試技術普及室、 中央農試生物工学部
土肥資材の効果について	生産者	7月12日	
マメ科牧草の栽培法等について	三重大学	7月13日	
草地管理法について	農業環境技術研究所	7月13日	
ばれいしょの早期枯凋（黒脚病）	空知農業改良普及センター北空知支 所	7月14日	上川農試技術普及室
トマト果実の斑点	上川農業改良普及センター士別支所	7月20日	上川農試技術普及室
牧草への気象要因の影響について	釧路農業改良普及センター釧路中西 部支所	7月21日	
ミニトマト根のこぶ（ネコブセンチュウ）	上川農業改良普及センター大雪支所	7月21日	上川農試技術普及室
レアフル製造技術支援	(株)大金	7月21日	
菜豆の黄化	留萌農業改良普及センター	7月25日	上川農試技術普及室
ニガウリ葉の枯死	美瑛町農業協同組合	7月25日	上川農試技術普及室
ばれいしょ茎葉の黄化（半身萎ちょう病）	上川農業改良普及センター	7月27日	上川農試技術普及室

収穫時ブロッコリの亀裂など（微量要素欠乏）	上川農業改良普及センター士別支所	8月2日	上川農試技術普及室
ペポカボチャ現地講習会	和寒町生産者	8月2日	上川農業改良普及センター士別支所
おうとう栽培技術について	留萌農業改良普及センター南留萌支所	8月2日	
りんごのモモシクイガ防除について	上川農業改良普及センター	8月2日	
きゅうり・オクラの栽培法について	旭川市一般	8月3日	
家庭菜園野菜類の病害について	旭川市一般	8月3日	
トマトの栽培法について	旭川市一般	8月3日	
家庭菜園の害虫について	旭川市一般	8月3日	
ハスカップの生育不良について	鷹栖町一般	8月3日	
トマトの下葉の処理法について	旭川市一般	8月3日	
きゅうりの病害対策について	旭川市一般	8月3日	
種子用カボチャの収穫時期について	当麻町一般	8月3日	
家庭菜園の生育不良について	当麻町一般	8月3日	
ひまわり・デントコーンの品種、播種量について	比布町生産者	8月3日	
加工用トマトの病害対策について	当麻町生産者	8月3日	
畑跡地での林木栽培について	当麻町生産者	8月3日	
家庭菜園トマト・きゅうり・ナス・しその栽培管理法について	旭川市一般	8月3日	
家庭菜園花木栽培について土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
トマト・ハーブの栽培について土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
小豆・ハウス土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
きゅうりナス栽培の土壌分析	鷹栖町一般	8月3日	上川農試技術普及室
トマトの栽培の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
ブドウの栽培の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
トマトの栽培の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
きゅうり・トマトの栽培について、土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
大葉の枯死原因について	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
小麦・いも・その他畑の土壌分析	旭川市生産者	8月3日	上川農試技術普及室
ニンジン栽培の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の土壌分析	比布町一般	8月3日	上川農試技術普及室
トマトしり腐れの対応法	比布町一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の土壌分析	鷹栖町一般	8月3日	上川農試技術普及室
トマトのしり腐れ、イモの穴の原因	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
きゅうりの病害について	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園野菜類の病害について	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
抜き取った雑草の処理法について	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の病害対策について	士別市一般	8月3日	上川農試技術普及室
トマトの栽培法について	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園（ナス）の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の生育不良について、土壌分析	当麻町一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園（トマト）の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室
家庭菜園の土壌分析	旭川市一般	8月3日	上川農試技術普及室

醸造用ぶどう苗の新梢管理について	美瑛町農業研修センター	8月4日	
遺体から出る有毒ガス等でイネが枯れる可能性について	旭川市中央警察署刑事第一課凶行班係	8月4日	
高糖度トマト栽培技術指導	網走農業改良普及センター美幌支所	8月8～9日	上川農試技術普及室
ハウス内の虫（ダイズコンリユウバエ）	空知農業改良普及センター北空知支所	8月9日	上川農試技術普及室
デルフィニウムの生長点の変色・枯死	上川農業改良普及センター名寄支所	8月9日	上川農試技術普及室
水稻異常生育個体（異型株混入）	上川農業改良普及センター富良野支所	8月16日	上川農試技術普及室
おうとうの裂果について	留萌農業改良普及センター南留萌支所	8月16日	
高糖度トマト現地研修会	下川町生産者	8月18日	上川農試技術普及室
ダイオウの枯葉（リゾクトニア菌）	美瑛町農業協同組合	8月19日	上川農試技術普及室
もちの柔らかさの機作	NHK札幌放送局	8月19日	
もちの曲がり法について	NHK札幌放送局	8月22日	
糯米の品種改良について	北海道科学大学・学生	8月22日	
堆肥の作成法について	株式会社 アンビエンテ丸大	9月5日	
ペポカボチャ現地調査	和寒町	9月5日	上川普及センター
スノーボール葉・花の障害（ツマグロアオカスミカメ）	空知農業改良普及センター北空知支所	9月5日	上川農試技術普及室
水稻品種改良について	NHKプラネット北海道	9月6日	
水稻品種改良について	北海道新聞生活環境部	9月6日	
水稻の疎植栽培法について	日本ニューホランド株式会社	9月7日	
高糖度トマトに用いる培地について	渡辺パイプ	9月12日	
西洋なし果実品質調査法指導	留萌農業改良普及センター南留萌支所	9月12日	
トマト果実表面のかさぶた状症状	上川農業改良普及センター富良野支所	9月13日	上川農試技術普及室
陸稲栽培の可能性	滝川警察署	9月13日	
水田の漏水対策について	富山県農業研究所	9月16日	
ユリの葉の斑点	上川農業改良普及センター名寄支所	9月16日	中央農試予察診断G
ミニトマト枯凋（フザリウム萎ちょう病）	上川農業改良普及センター大雪山支所	9月23日	上川農試技術普及室
ゲノム編集活用による作物育種について	NHK札幌放送局	10月3日	
「赤毛」の名称について	NHK札幌放送局	10月4日	
西洋なし果実追熟調査法指導	留萌農業改良普及センター南留萌支所	10月11日	
ばれいしょの粗皮症状	上川農業改良普及センター士別支所	10月12日	上川農試技術普及室
ズッキーニの腐敗症状	上川農業改良普及センター士別支所	10月13日	上川農試技術普及室
高糖度トマト栽培技術指導	釧路農業改良普及センター	10月14日	上川農試技術普及室
ばれいしょの食害様痕	上川農業改良普及センター大雪山支所	10月24日	上川農試技術普及室
辛みだいこんの形状について	北海道新聞稚内支局	10月27日	
水稻早生品種について	旭川市生産者 吉田氏	10月31日	
ハスカップ剪定技術指導	初山別村生産者	10月31日	留萌農業改良普及センター

粳米の北限について	北海道新聞士別支所	11月2日	
かぼちゃ貯蔵庫調査	上川農業改良普及センター士別支所	11月7日	上川農試技術普及室
冬野菜栽培技術指導	上川農業改良普及センター大雪支所	11月9日	上川農試技術普及室
北海道のイチゴ栽培の状況	北海道銀行 内山氏	11月24日	
食味に関するタンパク質の計量について	タキ科学	11月25日	
リンゴ果実の黒斑	上川農業改良普及センター	12月5日	上川農試技術普及室
冬野菜栽培技術指導	上川農業改良普及センター大雪支所	12月9日	上川農試技術普及室
そば情報交換会	幌加内町農業技術センター	12月12日	上川農試技術普及室
ミニトマト栽培培地（ロックウール）のカビ	上川農業改良普及センター大雪支所	12月21日	上川農試技術普及室
冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系について	上川管内普及センター	1月13日	上川農試技術普及室
旭川市農業センター試験成績検討会における助言	旭川市農業センター	2月23日	上川農試技術普及室
ドローンの農業利用について	旭川ICT協議会協議会	2月24日	

6. 講師等の派遣

名 称	依頼元	月日	担当者(所属)
JAきたはるか高糖度トマト研修会	JA北はるか	4月13日	地子 立 (上川地域)
年金受給者協会講演会	旭川年金受給者協会	5月19日	川岸康司 (上川部長)
第12回北海道スタンダード研究会勉強会	北海道スタンダード研究会	7月8日	佐藤毅 (上川水稻)
求職者のための食の販売促進人材育成セミナー	さっぽろ地域雇用創造協議会	7月25日	川岸康司 (上川部長)
病害虫診断技術研修	上川農業改良普及センター 富良野支所	9月6日	古川勝弘(上川環境) 新村昭憲 (上川環境)
第43回京都植物バイテクシンポジウム	京都府立大学、龍谷大学	9月13日	佐藤毅 (上川水稻)
北海道フードマイスター検定受験対策セミナー	札幌商工会議所	9月19日	川岸康司 (上川部長)
北海道除草剤・生育調節剤懇話会 「おいしい北海道米ができるまで」	(公財)日本植物調節剤研究協会 北海道支部	10月17日	佐藤毅 (上川水稻)
求職者のための食の販売促進人材育成セミナー	さっぽろ地域雇用創造協議会	10月25日	川岸康司 (上川部長)
委託プロジェクトA-9系・K系中間検討会	農研機構農村工学研究部門	10月27日	平山裕治 (上川水稻)
上川水稻直播ネットワーク会議冬期情報交換会	上川水稻直播ネットワーク会議	12月2日	田中英彦 (上川場長)
旭川地区施肥防除合理化推進協議会 成績検討会	旭川地区施肥防除合理化推進協議会	12月13日	古川勝弘(上川環境)
上川管内若手普及職員研修	上川農業改良普及センター	1月13日	川岸康司 (上川部長)
豆作り講習会	公益財団法人日本豆類協会	1月25日	古川勝弘(上川環境)
豆作り講習会	公益財団法人日本豆類協会	1月25日	沢口敦史(上川地域)
北海道フードマイスター検定受験対策セミナー	札幌商工会議所	1月28日	川岸康司 (上川部長)
水稻生産者学習会	学びの杜 真土	2月22日	熊谷聡 (上川環境)
たいせつファーマーズリーダー研修会	たいせつファーマーズリーダー	2月14日	田中英彦 (上川場長)
てん菜作り講習会	一般社団法人 北海道てん菜協会	2月14日	藤根統 (上川環境)
直播栽培導入に向けた講習会	東川町農業協同組合	3月2日	田中英彦 (上川場長)
旭川米生産流通協議会生産者総合研修会	旭川米生産流通協議会	3月10日	田中英彦 (上川場長)
日本草地学会小集会 (ランチタイムセミナー)	日本草地学会若手の会	3月21日	岡元英樹(上川環境)

7. 普及組織との連絡会議等

会 議 等 名 称	回数	開催日
上川地域農業技術支援会議	10	4/7, 4/13, 4/21, 5/16, 6/21, 10/12, 11/15, 12/20, 2/27, 3/13
留萌地域農業技術支援会議	4	6/23, 10/11, 11/11, 1/30
上川農業改良普及センター畑作部会	3	5/20, 7/11, 10/11
留萌農業改良普及センター畑作部会	5	4/26, 5/18, 6/27, 10/11, 12/15
上川農業改良普及センター園芸部会	2	7/8, 10/27
留萌農業改良普及センター平成28年度地域課題 解決研修 (園芸部会)	1	1/23
上川農業改良普及センター全職員会議	2	9/27, 2/10
上川地域新技術伝達研修	1	2/7
留萌地域新技術伝達研修	1	2/8
留萌農業改良普及センター年度末検討会	1	2/9

8. 関連委員会・学会研究会役員

名 称	機関名	氏名
農林水産・食品産業科学技術研究推進事業評価分科会評価委員	農林水産・食品産業技術振興協会	佐藤 毅
農林水産・食品産業科学技術研究推進事業 1次(書面)審査専門評価委員	農林水産・食品産業技術振興協会	平山裕治
北海道水稲懇話会監事	水稲懇話会	平山裕治
北海道米品質向上対策委員会	北海道米麦改良協会	佐藤 毅
日本草地学会若手の会世話人	日本草地学会	岡元英樹
北海道てん菜協会技術専門部会委員	北海道てん菜協会	井上哲也
北海道フードマイスター運営委員、現行編小委員	札幌商工会議所	川岸康司
園芸学会平成29年度秋季北海道大会実行委員	園芸学会	川岸康司
園芸学会平成29年度秋季北海道大会実行委員	園芸学会	稲川 裕
Horticulture Journal 審査委員	園芸学会	川岸康司
Scientia Horticulturae 審査委員	Scientia Horticulturae	川岸康司

V その他

1. 職員研修

(1) 一般研修

研修者名	研修名	研修期間	(日間)	研修先
倉持雅治 伊藤雄一	刈払機安全教育講習	6/3	1	旭川市
田中英彦 川岸康司 小山内利文	ナイスライフセミナー	8/4	1	旭川市
石崎雅一 加藤章広 佐藤隼太	刈払機安全教育講習	8/10	1	旭川市
倉持雅治 伊藤雄一	衛生推進者養成講習	10/14	1	旭川市
佐藤隼太	新規職員研修(支援職員)	2/28~3/1	2	札幌市、江別市

(2) 専門研修

研修者名	研修名	研修期間	(日間)	研修先
地子 立	園芸学会平成28年度秋季大会およびアスパラガス研究小集会	9/9~9/11	3	愛知県
佐藤 毅 平山裕治 菅原章人 西村 務 道満剛平	平成28年度研究開発能力向上研修	10/14	1	場内
川岸康司 菅原章人	たまねぎセミナー2016	11/10	1	旭川市
川岸康司	エコロジカル・フットプリント講演会	11/28	1	旭川市
岡元英樹	土壌肥料学会北海道支部会	11/29	1	帯広市
佐藤 毅	日本育種学会第131回講演会	3/29~3/30	2	愛知県
岡元英樹	日本作物学会第243回講演会	3/29~3/30	2	東京都

(3) 職場研修

研修等名	主な内容	開催日	受講者数
農作業安全に関する研修等	農作業安全講習(稲刈り)	9月5日	31
救命講習・農作業安全研修	農作業事故の実態と安全対策	9月6日	59
健康づくりセミナー	健康診断結果表からわかることほか	11月16日	14
消防訓練の実施	避難、講習(防火管理について)	11月16日	49

2. 技術研修生の受入

なし

3. 海外技術協力

派遣者名	プロジェクト名	派遣期間	(日間)	派遣先
岡元英樹	インド マディヤ・プラディシュ州大豆増産プロジェクト	8/17～8/31	15	インド
岡元英樹	インド マディヤ・プラディシュ州大豆増産プロジェクト	9/30～10/22	23	インド

4. 参観・交流

1) 一般参観来場者（注、テーマを指摘してきたのは研修扱いとする）

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人 数	0	6	215	252	228	73	33	190	46	83	96	8	1,230

2) 第21回 上川農試公開デー （平成28年8月3日開催、於：場内）

○参加者 470 名

○催し、イベント内容

◇体験イベント

①「ごはん」で品種を食べ比べよう！、②農試OBによる研究秘話、③食パンと高糖度トマトの試食、④農試施設探検ツアー、⑤水田・畑バス見学

◇終日イベント

⑥地元特産品販売コーナー、⑦何でも農園相談、⑧小麦粉で粘土を作ろう、⑨土で塗り絵をしてみよう、⑩田んぼにいる生き物を観察しよう、⑪いろいろなドン菓子試食、⑫田んぼや畑で働く農業機械コーナー、⑬農試の研究アラカルト、⑭北海道のクリーン・有機農業コーナー、⑮輪投げで景品をもらおう、⑯地震に強い建物ってどんなだろう？、⑰木育ひろば、⑱クイズラリー

○協賛：愛別・上川・当麻・比布の4町およびJA、上川農業改良普及センター、北海道旭川農業高等学校、水土里ネット大雪、有機農業ネットワーク

3) 新技術発表会 （平成29年2月20日 13:00～16:00 当麻町公民館まとまる 99名参加）

○新技術発表

発表テーマ

(発表者)

- | | | |
|---------------------------------|----------------------|--------|
| ①平成28年度に特に注意を要する病害虫 | (生産環境グループ) | 藤根 統) |
| ②簡易軟白栽培ねぎで発生する黒腐菌核病はこうして防ぎましょう | (生産環境グループ) | 新村 昭憲) |
| ③ミニトマトの斑点病・葉かび病・すすかび病の特徴と防除法 | (花・野菜技術センター生産環境グループ) | 白井 佳代) |
| ④水稲疎植栽培の特徴と注意点 | (中央農業試験場水田農業グループ) | 佐々木 亮) |
| ⑤水田の大区画化と集積で米生産費の低減と作付面積の拡大を図ろう | (中央農業試験場生産システムグループ) | 山田 洋文) |
| ⑥有機物施用における水稲のリン酸減肥可能量の推定 | (生産環境グループ) | 岡元 英樹) |
| ⑦北海道米の白未熟粒・死米の発生要因と軽減方策 | (生産環境グループ) | 熊谷 聡) |

○農業改良普及センターの活動紹介

- | | | |
|---------------|----------------|--------|
| ①水稲成苗ポット楽ちん育苗 | (上川農業改良普及センター) | 有田 匡志) |
|---------------|----------------|--------|

5. マスコミ等への対応

年月日	取材機関	取材内容	放映、掲載	取材者	対応者
H28.5.9	ホクレン管理本部 総務部広報総合課	道総研とホクレン の研究の取り組み とホクレンに期待 すること	ホクレングループレポ ート	ライター 孫田二規子 他2名	佐藤 毅
H28.5.9	日本経済新聞札幌 支社	北海道の稲作について	日本経済新聞北海道経 済面フロントランナー 6/14	宇野沢晋一 郎	佐藤 毅
H28.7.14	北海道新聞社	地球温暖化に対する水 稲育種・栽培上の課題 など	地球温暖化に係る特集 記事 8/11		田中英彦
H28.7.28	(株)メディア・ワ ン	「ゆめぴりか」の育成 について	フジテレビCS「ONE ・TWO・NEXT」10月 以降、ANA 国内線（偶 数便）、国際線	奥村健太他	佐藤 毅
H28.8.3	日本農業新聞	上川農試公開デーにつ いて	日本農業新聞北海道面 8/8		水稻 G 地域技術 G
H28.9.8	北海道新聞社	北海道の水稻の品種改 良について	週刊まなぶん 9/17	宮本 武	佐藤 毅
H28.9.8	NHKプラネット北 海道支社	北海道の水稻の品種改 良について	I LOVE JIMOTOなるほど 物語（金曜日19：56～1 9：59）10月下旬～11月 月上旬放送	山田三平他	佐藤 毅
H28.11.2	NHK旭川放送 局、読売新聞東京 本社北海道支社旭 川支局、日本農業 新聞北海道支所旭 川通信部、北海道 新聞社旭川支社報 道部	冬期の温室における田 植え（移植作業）につ いて	NHK：11/2 読売新聞：11/3 日本農業新聞：11/3 北海道新聞：11/3	NHK:吉村 啓 読売新聞:田 中耕太郎 日本農業新聞 :石持清仁 北海道新聞社 :高田かすみ	佐藤 毅
H28.11.11	朝日新聞北海道支 社	「ゆめぴりか」以降の 水稻品種改良について	朝日新聞北海道面 11/30	大久保泰	佐藤 毅
H28.12	北海道新聞旭川支 社	道産米の評価について	北海道新聞「この仕事 で明日へ」12/7	高田かすみ	田中英彦
H28.12.7	HBC 旭川放送局	北海道米の品種改良の 歴史等について	「今日ドキッ！」12/7	花城 護 土谷一步	佐藤 毅
H28.12.12	全国米穀販売事業 共済協同組合 ネ ット事業推進室	北海道もち米の歴史や 品種改良について	全国米穀販売事業共済 協同組合のHP「ごは ん彩々」特集「日本お 米紀行」12月	鷹井大介	平山裕治

H28.12.12	NHK 旭川放送局	上川農業試験場で実施中の葉菜類の厳冬期栽培試験について	ほっとニュース北海道 1/6	吉村 啓	地子 立
H28.12.22	朝日新聞北海道支社	農業用ハウスで暖房を使わない「無加温栽培技術試験」について	朝日新聞北海道面 1/13	渡辺康人	地子 立
H29.1.17	北海道新聞社旭川支社報道部	厳冬期における葉菜類の無加温栽培について	北海道新聞旭川・上川版 1/21	高田かすみ	地子 立
H29.1.18	岩手日報編集局報道部	北海道におけるおいしい米作りについて	岩手日報 1月	清水美穂	佐藤 毅
H28.3.15	NHK旭川放送局、日本農業新聞北海道支所旭川通信部、北海道新聞社旭川支社報道部、毎日新聞北海道報道部旭川支局	温室での稲刈りについて	NHK：3/15 日本農業新聞：3/19 北海道新聞：3/16 毎日新聞：3/16	NHK:曾我太一 日本農業新聞：石持清仁 北海道新聞社：弓場敬夫 毎日新聞社：横田信行	西村 努

6. 委員会活動

1) 委員会及び構成委員一覧

委員会名	委員長	副委員長	委 員								
			総務課	水稻グループ		生産環境グループ		地域技術グループ	技術普及室	その他	
公開デー実行委員会	川岸康司	佐藤 毅 古川勝弘	倉持雅治	木内 均	石崎雅一	大塚省吾	藤根 統	藤田涼平		木村 恵	
業務委員会	佐藤 毅		伊藤雄一	道満剛平 石崎雅一	加藤章広 佐藤隼太	岡元英樹	藤根 統	地子 立			
情報システム運営委員会	古川勝弘	菅原章人	小山内利文	佐藤 毅	木内 均	藤倉潤治	藤根 統	菅原章人		若宮貞人	
作況報告作成・気象委員会	稲川 裕	沢口敦史		前川利彦				沢口敦史			
防火対策委員会	田中和夫	佐藤 毅	伊藤雄一	木内 均	加藤章広	熊谷 聡	新村昭憲	稲川 裕		木俣 栄	
公宅委員会	田中和夫		倉持雅治	佐藤 毅	平山裕治	藤倉潤治		井上哲也		木村 恵	
安全衛生委員会	田中英彦	田中和夫		佐藤 毅		古川勝弘		稲川 裕		木俣 栄	組合員が委員長を除く半数以上
入札参加指名選考委員会	田中英彦	川岸康司	田中和夫	佐藤 毅		古川勝弘		稲川 裕			
新技術発表実行委員会	川岸康司	稲川 裕	小山内利文	佐藤 毅	西村 努	岡元英樹	藤根 統	沢口敦史	井上哲也	木村 恵	
土壌病害対策委員会	稲川 裕	新村昭憲	倉持雅治	佐藤 毅		藤倉潤治		菅原章人		木俣 栄	

分担事項	主査	副主査	副主査
「地域農業技術センター連絡協議会」活動の対応	稲川 裕	沢口敦史	
「遺伝資源連絡委員会」の対応	平山裕治	菅原章人	
「北農会」協力委員	藤倉潤治		
「水稻直播ネットワーク」の対応	沢口敦史	(川岸康司)	
有機農業ネットワークへの対応	新村昭憲	藤倉潤治	
研修・図書担当	稲川 裕	藤倉潤治	平山裕治

分担事項	主査	副主査
上川地域道総研連絡会議	古川勝弘	沢口敦史

2) 図書委員会

寄贈図書の受け入れ簿への記載と整、論文購入希望の取りまとめを行った。

3) 研修委員会（学会報告予演会、職員研修の開催）

(1) 学会予演会など

- H28.6.8 参観リハーサル
- H28.9.5 平成 28 年園芸学会秋季大会予演会(地子研究主任)
- H28.9.27 重点研究予定課題の評価委員会プレゼンテーション予演会(地子研究主任)
- H28.12.1 北海道園芸研究談話会予演会(地子研究主任)
- H29.2.6 平成 29 年度職員研究奨励事業プレゼンテーション予演会（道満研究職員）
- H29.2.16 上川農業試験場新技術発表会予演会
- H29.2.16 第 4 回場内ティータイムセミナー（古川研究主幹）
- H29.2.16 2017 年度日本草学会弘前大会、日本作物学会第 243 回講演会予演会（岡元研究主任）
- H29.3.14 日本育種学会第 131 回講演会学会賞受賞講演予演会（佐藤研究主幹）
- H29.3.14 第 5 回場内ティータイムセミナー（田中場長）

(2) 職員研修(場内講演会等)

- H28.4.14 学位授与記念講演会「北海道の水等直播栽培における落水出芽法の開発」（田中場長）
- H28.6.29 黒竜江省農業科学院による講演(何寧 外事処長 他 2 名)
- H28.11.1 海外派遣（インド大豆プロジェクト）帰庁報告会（岡元研究主任）

4) 業務委員会

圃場管理業務、環境整備業務等を効率的にかつ円滑に遂行するため、毎週木曜日に業務委員会を開催した。

5) 安全衛生委員会

- 平成 28 年 7 月 29 日に委員会を開催した。
- 平成 29 年 1 月 30 日に職場巡回点検を実施した。
- 平成 29 年 2 月 27 日に職場巡回点検を実施した。

6) 土壌病害対策委員会

土壌病害対策のさらなる徹底のため、圃場への病原菌等の持ち込みを防止するため、試験場敷地を外部区域と圃場管理区域に分けることとし、区域の境界の設定、外部区域から圃場管理区域への進入方法等について検討し、必要な設備等の購入。また、「上川農試土壌病害虫汚染防止対策実施要領」を改訂し、平成 26 年度当初から施行できる体制を整えた。

7) 企画情報および農業情報技術システム運営委員会

ホームページでは定期作況報告等の更新を適宜行った。

7. 表彰

受賞者	表彰事項	受賞年月日
田中英彦	平成 28 年度道総研職員表彰（永年）	平成 28 年 7 月 1 日
稲川裕	平成 28 年度道総研職員表彰（永年）	平成 28 年 7 月 1 日

8. 学位授与

なし

VI 自己点検への対応表

番号	項目	件数
8	外部資金による研究課題数 (H28)	11
10	研究成果発表会・企業等向けセミナーの開催件数 (H28)	1
10	研究成果発表会・企業等向けセミナーへの延べ参加者数 (H28)	99
10	研究会等の開催件数 (H28)	0
10	研究会等への延べ参加者数 (H28)	0
10	口頭および刊行物による成果の公表件数 (H28)	56
11	展示会等への出展件数 (H28)	1
11	普及組織との連絡会議等開催件数 (H28)	31
11	企業へ訪問し広報活動した件数 (H28)	0
11	行政や企業等で活用された成果の数 (H28)	0
14	課題対応型支援の実施件数 (H28)	0
14	技術相談、技術指導の実施件数 (H28)	156
17	研修会・講習会等の開催件数 (H28)	9
17	研修者・講習会等の延べ参加人数 (H28)	547
17	研修者の延べ受入人数 (H28)	2
17	うち企業等技術者や地域産業担い手の受入人数 (H28)	0
17	うち大学等の学生の受入人数 (H28)	0
18	連携協定先との事業の実施件数 (H28)	2
19	道関係部との連絡会議等の開催件数 (H28)	15
19	市町村との意見交換等の開催件数 (H28)	2
20	情報発信の回数 (H28)	16
24	道民意見把握調査の回答数 (H28)	296
24	うち業務の改善意見数 (H28)	7
24	うち改善意見に対する対応件数 (H28)	3
24	関係団体等との意見交換等の開催件数 (H28)	1
26	国内研修Ⅱ（外部講師招へいによる職場内研修）の受講者数 (H28)	0
38	視察者・見学者の受入件数 (H28)	80
38	視察者・見学者の延べ受入人数 (H28)	1,230
38	出前授業の実施件数 (H28)	0
38	道民向けイベントの開催件数 (H28)	1
38	うち公開デー等の開催件数 (H28)	1
38	道民向けイベントの延べ参加者数 (H28)	463
38	うち公開デー等の延べ参加者数 (H28)	463
38	国際協力事業等への協力件数 (H28)	2
42	グリーン購入の金額 (H28)	192千円

天 北 支 場

I. 概 要

1. 沿 革

当場は、大正5年に本道北部開拓の前進基地として天塩郡天塩村に天塩農事試作場として発足した。その後数次にわたる組織の改称があったが、昭和25年農業試験研究機関の整備統合により国立と道立に二分され、当場は道費支弁の北海道立農業試験場天北支場となった。日本海沿岸北部を対象とした天北支場に対し、オホーツク沿岸北部を対象とする試験研究機関として、昭和27年枝幸郡浜頓別町字戸出に宗谷支場が発足した。昭和39年11月試験研究機関の機構改革により宗谷支場を天北農業試験場に改称し、天北支場は合併されて天塩支場となった。

この間、道北地域の開発および農業発展をめざして研究を遂行してきたが、昭和57年12月道立農業試験場整備計画に基づき天塩支場は本場に吸収統合され、67年間の幕を閉じた。吸収統合と同時に泥炭草地科が新設され、浜頓別町頓別原野に泥炭試験圃場を設置して試験研究業務を継承した。

北海道行政組織規則の一部改正により、昭和59年4月から草地科が草地飼料科に、平成4年4月から研究部長、専門技術員室が新設され、作物科が牧草科に改称された。平成11年4月、泥炭草地科は土壤肥料科に統合された。

平成12年4月には、時代に即した効果的・効率的な組織再編が行われ、専門技術員室が技術普及部として新たに試験場の組織に位置付けられたほか、研究部についても、牧草科、草地飼料科、土壤肥料科の3科が牧草飼料科と草地環境科の2科に統合、改称された。

平成18年4月、改訂された道立農業試験場研究基本計画に基づき、天北農業試験場は廃止となり、新たに上川農業試験場天北支場が設置された。こ

れに伴い、総務課、研究部、技術普及部が廃止となり、技術普及部の1部体制となった。また、技術普及部と地域とを繋ぐ主査（地域支援）が新設された。

平成22年4月、道立試験研究機関の地方独立行政法人化に伴い、地方独立行政法人北海道立総合研究機構農業研究本部上川農業試験場天北支場となり、技術普及部は地域技術グループとなった。また、技術普及室が新設され道の普及指導員が配置された。

平成28年4月、組織機構改正により主査（環境）が廃止となり、地域技術グループには主査（地域支援）と主査（草地）が配置された。

2. 施設および試験圃場

1) 位 置

当場は枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘8丁目2番地にあり、北緯45° 07' 東経142° 22' 海拔13mに位置し、浜頓別町市街中心部から南東1.5kmの距離で国道275号線沿いにある。

2) 土 壌

台地は海岸段丘に発達した酸性褐色森林土および重粘土と称される疑似グライ土からなり、低地は頓別川沿いに発達した泥炭土である。台地土壤の化学性は微酸性で養肥分の保持力に優れているが、土壤の物理性は重粘堅密で保水性が小さい。

3) 面積および利用区分

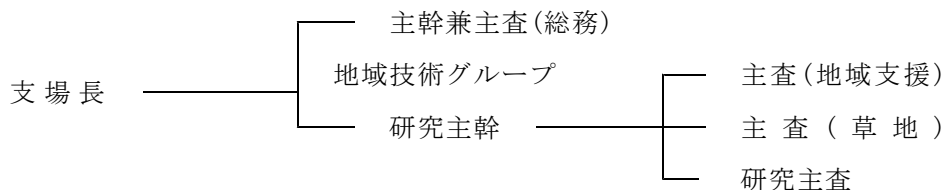
建物敷地58,392㎡、試験圃場449,100㎡、その他1,183,361㎡、合計1,690,853㎡。

◆土地面積および利用区分の内訳

(単位 ㎡)

建 物 敷 地	試 験 圃 場			そ の 他	合 計
	精密圃場	牧草地	計		
58,392	56,600	392,500	449,100	1,183,361	1,690,853

3. 機 構



4. 職員の配置

(平成29年3月31日現在)

区 分	法人職員		道派遣職員	計
	研究職	研究支援職		
支 場 長	1			1
主 幹			1	1
研 究 主 査	1			1
主 査	3			3
主 査 任		2	1	3
合 計	5	2	2	9

5. 職 員

1) 現 在 員

(平成29年3月31日現在)

職 名	職 種	氏 名	職 名	職 種	氏 名
支場長	研究職	奥村 正敏	主 任	研究支援職	笹木 正志
主幹	行政職	種村 嘉隆	”	”	松原 哲也
主任	”	天満谷 誓司			
研究主幹	研究職	藤川 朗			
主査(地域支援)	研究職	有田 敬俊			
主査(草地)	”	林 拓			
研究主査	”	二門 世			

2) 転入および採用者

職 名	氏 名	年 月 日	摘 要
主幹	種村 嘉隆	28. 4. 1	道農政部農政課から
主査(草地)	林 拓	28. 4. 1	根釧農業試験場から

職 名	氏 名	年 月 日	摘 要
主幹	小野田 剛	28. 3. 31	退職
主査(地域支援)	井内 浩幸	28. 4. 1	根釧農業試験場へ
主査(草地)	佐藤 公一	28. 4. 1	畜産試験場へ

6. 支出決算

(単位：円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	残額(A-B)
研究用備品整備費	1,036,800	1,036,800	0
維持管理経費	10,011,000	9,991,153	19,847
運営経費	11,396,302	11,390,459	5,843
重点研究費			
經常研究費	2,858,000	2,852,005	5,995
技術普及指導費	160,000	157,698	2,302
共同研究費			0
国庫受託研究費	1,283,000	1,282,592	408
道受託研究費	496,800	496,800	0
その他受託研究費	2,269,000	2,268,260	740
	0	0	0
	0	0	0
合 計	29,510,902	29,475,767	35,135

7. 収入決算額

(単位：円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	増減(A-B)
農産物売払収入	862,061	862,061	0
不要品売払収入	0	0	0
合 計	862,061	862,061	0

8. 建 物（固定財産）

施 設 名	棟数	面 積 m ²	備 考
庁 舎	1	483.76/963.48	鉄筋コンクリート
庁舎付属棟	1	71.40	ブロック
調査兼試料調整室	1	120.48	木造・鉄骨
油 庫	1	14.06	ブロック
研 修 館	1	330.68	ブロック
肥料・農薬庫	1	99.00	鉄 骨
土壌前処理調整室	1	78.92	ブロック
硝 子 室	1	108.28	鉄 骨
牛舎兼乾草収納庫	1	435.54	木造・鉄筋コンクリート
農機具格納庫 1	1	173.58	鉄 骨
牧草調査室	1	248.19	ブロック
試料乾燥庫兼育苗ハウス	1	88.02	鉄 骨
作業室兼休憩室	1	221.00	鉄 骨
車 庫	1	84.00	鉄 骨
農機具兼乾草収納庫	1	241.92	鉄 骨
農機具格納庫 2	1	265.35	鉄 骨
牧草温室	1	100.44	鉄 骨
作物調査室	1	233.28/311.04	鉄 骨
作業室	1	9.00	木 造
牧草種子乾燥舎	1	116.64	鉄 骨
乾草収納庫	1	291.60	鉄 骨
ストレス耐性検定舎	1	198.72	鉄 骨
堆肥舎	1	317.25	鉄骨・鉄筋コンクリート
計	23	4,331.11/4,888.59	

注) 面積の表示は、「建築面積/延床面積」

9. 新たに購入した備品（購入価格20万円以上のもの）

（単位：円）

品 名	規 格	数量	金 額
ロータリー	K R V 240 - 2 L	1台	1,036,800
合 計			1,036,800

Ⅱ. 気象と作況

1. 気象概況

1) 冬期間（前年11月下旬～平成28年4月中旬）

平均気温は11月下旬は低く、12月上中旬は高く、12月下旬から3月上旬は総じてやや低く、3月中旬から4月上旬はやや高く、4月中旬はやや低く推移した。降水量は11月下旬は多く、12月上旬から1月下旬は総じて少なく、2月中旬は多く、3月中旬は少なく、4月上中旬は多かった。日照時間は11月下旬から3月上旬は平年並か総じてやや少なく、3月中下旬はやや多く、4月中旬は少なかった。

平成27年晩秋の根雪始は11月21日と平年より2日早かった。平成28年早春の根雪終は3月30日と平年より20日早く、積雪期間は平年より19日短い130日であった。晩霜は4月27日に観測され平年より20日早く、初霜は10月22日に観測さ

れ平年より7日遅かった。無霜期間は176日と平年より17日長かった。

2) 牧草生育期間（平成28年4月下旬～11月中旬）

平均気温は4月下旬で低く、5月中下旬は高く、6月上旬から7月中旬は低い旬が多く、7月下旬から8月中旬はやや高く、9月上旬から11月中旬は低い旬が多かった。降水量は4月下旬から5月下旬は少ない旬が多く、6月上旬から9月上旬は多い旬が多く、9月中旬から11月中旬は少ない旬が多かった。日照時間は4月下旬でやや少なく、5月は長く、6月中旬はやや短く、6月下旬から8月中旬は平年並から長く、8月下旬から9月上旬は短く、9月中旬から11月中旬は旬により長短が異なることが多かった。

季節表

項目 年次	降雪始 (月.日)	根雪始 (月.日)	融雪期 (月.日)	降雪終 (月.日)	積雪期間 (日)	耕鋤始 (月.日)	晩霜 (月.日)
本年	27年10.27	27年11.21	28年 3.30	28年 4.26	130	4.28	4.27
平年	10.26	11.22	4.19	5.8	149	4.30	5.16
比較	1	△1	△20	△12	△19	2	20

気象表

年月旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)			降水量(mm)			降水日数(日)			日照時間(hrs)			畑地温(10cm,℃)			平均風速(m/s)
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
27年 上	5.9	6.6	△0.7	8.8	10.3	△1.5	2.3	2.8	△0.5	6.5	37.5	△31.0	3	5	△2	38.1	29.5	8.6				4.6
11月 中	2.9	2.6	0.3	6.2	5.5	0.7	-0.2	-0.2	0.0	6.5	32.6	△26.1	3	7	△4	25.6	24.4	1.2				2.2
下	-2.0	0.4	△2.4	0.7	3.1	△2.4	-5.7	-2.7	△3.0	40.5	21.8	18.7	5	6	△1	14.7	20.8	△6.1				2.9
12月 上	0.0	-1.9	1.9	2.2	0.8	1.4	-2.9	-4.9	2.0	17.5	27.3	△9.8	5	6	△1	22.3	19.6	2.7				2.6
中	-1.0	-3.6	2.6	2.1	-0.9	3.0	-4.1	-6.9	2.8	13.5	21.5	△8.0	5	5	△0	22.2	19.3	2.9				2.3
下	-4.6	-4.0	△0.6	-2.1	-1.3	△0.8	-7.5	-7.5	0.0	5.0	26.2	△21.2	3	7	△4	26.6	23.5	3.1				2.6
28年 上	-5.9	-5.7	△0.2	-4.1	-2.9	△1.2	-8.6	-9.1	0.5	12.0	15.3	△3.3	7	5	2	15.3	20.6	△5.3				2.1
1月 中	-7.7	-7.4	△0.3	-4.6	-4.4	△0.2	-11.2	-11.4	0.2	6.0	10.8	△4.8	3	5	△2	26.4	26.0	0.4				3.6
下	-7.8	-6.0	△1.8	-4.8	-2.9	△1.9	-11.2	-10.1	△1.1	7.5	11.4	△3.9	2	6	△4	24.0	26.0	△2.0				2.4
2月 上	-7.8	-7.0	△0.8	-4.5	-3.4	△1.1	-12.5	-11.4	△1.1	13.0	10.0	3.0	5	6	△1	34.0	30.4	3.6				2.3
中	-4.4	-5.9	1.5	-1.3	-2.6	1.3	-8.8	-10.4	1.6	26.5	17.4	9.1	5	5	△0	18.5	31.1	△12.6				3.1
下	-8.1	-4.1	△4.0	-4.9	-0.3	△4.6	-12.8	-9.1	△3.7	14.0	12.8	1.2	4	4	△0	23.1	31.2	△8.1				2.8
3月 上	-4.1	-3.5	△0.6	-0.2	-0.2	0.0	-8.3	-7.5	△0.8	13.5	18.7	△5.2	4	5	△1	39.8	40.2	△0.4				6.1
中	-0.5	-1.1	0.6	3.7	2.3	1.4	-4.5	-5.0	0.5	1.5	17.3	△15.8	1	5	△4	48.9	38.9	10.0				5.5
下	1.3	-0.2	1.5	4.7	3.0	1.7	-2.2	-3.6	1.4	6.5	15.1	△8.6	2	5	△3	71.2	53.4	17.8				5.0
4月 上	3.0	1.8	1.2	7.4	5.1	2.3	0.7	-1.9	2.6	21.0	11.9	9.1	4	4	0	56.9	58.0	△1.1				3.4
中	2.4	3.6	△1.2	5.4	7.4	△2.0	-0.7	0.0	△0.7	39.0	11.1	27.9	7	3	4	32.3	57.2	△24.9				3.1
下	4.2	6.6	△2.4	7.6	11.1	△3.5	0.6	2.5	△1.9	8.5	14.0	△5.5	4	3	1	43.0	58.9	△15.9	4.6	4.1	0.5	3.5
5月 上	8.0	7.8	0.2	13.3	12.1	1.2	3.3	3.8	△0.5	12.5	19.2	△6.7	3	4	△1	70.5	48.4	22.1	6.7	5.7	1.0	3.3
中	13.4	8.2	5.2	19.1	12.3	6.8	8.4	4.5	3.9	6.0	24.5	△18.5	2	4	△2	80.3	46.5	33.8	9.6	6.5	3.1	3.5
下	12.9	9.7	3.2	17.8	14.0	3.8	8.0	5.5	2.5	13.5	24.9	△11.4	2	4	△2	100.6	56.8	43.8	12.1	9.2	2.9	3.4
6月 上	8.9	11.7	△2.8	12.7	16.1	△3.4	5.7	7.8	△2.1	49.0	9.7	39.3	3	3	0	46.0	51.6	△5.6	9.5	9.6	△0.1	2.2
中	11.4	13.0	△1.6	14.4	17.1	△2.7	8.7	9.6	△0.9	43.5	21.3	22.2	5	3	2	30.0	43.1	△13.1	13.1	11.4	1.7	2.2
下	14.2	14.4	△0.2	18.4	18.6	△0.2	10.4	10.7	△0.3	17.0	21.1	△4.1	2	4	△2	81.3	54.4	26.9	12.6	12.4	0.5	3.7
7月 上	15.6	17.1	△1.5	19.6	21.1	△1.5	12.3	13.8	△1.5	68.0	26.3	41.7	5	4	1	54.5	44.4	10.1	14.7	14.6	0.1	2.6
中	14.6	16.7	△2.1	17.9	20.3	△2.4	12.6	13.8	△1.2	6.0	42.5	△36.5	2	4	△2	39.7	37.3	2.4	15.1	15.3	△0.2	2.8
下	19.8	18.7	1.1	23.7	22.6	1.1	16.5	15.4	1.1	67.0	30.7	36.3	3	4	△1	66.9	49.4	17.5	18.5	16.8	1.7	1.9
8月 上	21.6	20.7	0.9	25.7	24.3	1.4	17.8	17.7	0.1	7.5	25.6	△18.1	3	3	0	74.3	46.6	27.7	20.6	18.9	1.7	2.2
中	21.7	20.3	1.4	25.6	23.8	1.8	18.8	17.2	1.6	87.0	37.7	49.3	5	5	0	50.3	37.6	12.7	20.1	19.0	1.1	1.8
下	19.6	19.3	0.3	23.2	23.2	0.0	16.2	15.7	0.5	40.0	38.2	1.8	7	4	3	45.6	58.3	△11.7	19.6	18.3	1.3	3.2
9月 上	16.1	18.6	△2.5	17.8	22.6	△4.8	14.7	15.0	△0.3	97.0	45.8	51.2	7	5	2	3.5	50.4	△46.9	17.6	17.3	0.3	3.2
中	13.9	17.0	△3.1	18.7	21.4	△2.7	10.1	13.2	△3.1	27.5	27.0	0.5	3	5	△2	56.8	50.2	6.6	15.3	16.3	△1.0	2.4
下	15.6	14.0	1.6	21.2	18.7	2.5	10.5	9.5	1.0	22.0	31.4	△9.4	1	5	△4	86.2	55.7	30.5	15.0	14.2	0.8	2.7
10月 上	11.1	12.7	△1.6	15.0	16.7	△1.7	6.8	7.6	△0.8	37.5	19.3	18.2	6	4	2	27.1	50.9	△23.8	12.6	12.2	0.4	2.9
中	9.9	9.3	0.6	14.3	14.0	0.3	5.9	5.4	0.5	18.5	33.7	△15.2	3	6	△3	56.1	42.0	14.1	10.3	10.5	△0.2	3.2
下	3.4	7.8	△4.4	6.0	12.5	△6.5	0.2	3.3	△3.1	22.0	30.4	△8.4	4	4	0	26.4	41.0	△14.6	6.5	7.6	△1.1	3.2
11月 上	-0.7	6.3	△7.0	1.5	10.0	△8.5	-2.9	2.5	△5.4	10.5	35.8	△23.3	4	5	△1	13.3	30.0	△16.7	3.7	6.1	△2.4	2.9
中	1.0	2.9	△1.9	4.1	5.8	△1.7	-2.3	0.0	△2.3	30.0	32.3	△2.3	6	6	0	19.3	23.9	△4.6	2.6	4.3	△1.7	2.7

注1) 平年値は前10か年の平均値。

2) △印は対平年値比減を示す。

3) 平均畑地温は上川農試天北支場のデータ、その他の観測値は浜頓別アメダスのデータ。

2. 作 況

1) チモシー採草型

作況：良

事由：本年は融雪期が平年より20日早かったが、4月上旬および中旬に一時的に積雪状態となったことなどから、萌芽期は平年より2日早いにとどまった。冬損は認められなかった。1番草の刈り

取りは出穂期に行った。1番草の生草収量は5月下旬までの少雨により平年より少なかったが、同乾物収量は平年比109%と多収であった。2番草乾物収量は平年並みで、3番草乾物収量は平年より多かった。年間合計乾物収量は平年より6%多かった。

調査項目	本年	平年	比較	
萌芽期(月/日)	4/20	4/22	△ 2	
冬損程度	1.0	1.0	0.0	
出穂始(月/日)	6/14	6/20	△ 6	
収穫日 (月/日)	1番草	6/21	6/23	△ 2
	2番草	8/8	8/15	△ 7
	3番草	9/29	10/7	△ 8
草丈(cm)	5月20日	31	24	7
	1番草	96	103	△ 7
	7月20日	36	37	△ 1
	2番草	55	54	1
	9月20日	39	46	△ 7
	3番草	45	46	△ 1
10月20日	16	15	1	

調査項目	本年	平年	比較	平年比	
生草収量 (kg/10a)	1番草	3067	3282	△ 215	
	2番草	739	823	△ 84	
	3番草	804	743	61	
	年合計	4610	4849	△ 239	
乾物率 (%)	1番草	20.7	17.7	3	
	2番草	25.0	25.5	△ 1	
	3番草	22.7	24.3	△ 2	
乾物収量 (kg/10a)	1番草	636	583	53	109
	2番草	185	186	△ 1	99
	3番草	183	178	5	103
	年合計	1003	947	56	106

注) 平年値は前7カ年のうち、最豊年(平成24年)および最凶年(平成27年)を除いた5カ年の平均値である。

2) ペレニアルライグラス放牧型

作況：不良

事由：萌芽期は平年より3日早かった。紅色雪腐病が散見され、若干の冬損が認められた。各番草の草丈は2番草を除き平年より低い傾向であった。

本年の乾物収量は各番草とも平年より少なく、年間合計では平年比78%となった。これは、低温寡照(2番草、5番草、6番草)、低温少雨(3番草)、少雨(4番草)だったためと考えられる。

調査項目	本年	平年	比較	
萌芽期(月/日)	4/20	4/23	△ 3	
冬損程度	2.0	2.2	△ 0.2	
草丈(cm)	1番草	18	21	△ 3
	2番草	49	48	1
	3番草	27	37	△ 10
	4番草	31	33	△ 2
	5番草	48	31	17
	6番草	26	29	△ 3
生草収量 (kg/10a)	1番草	184	226	△ 42
	2番草	1426	1674	△ 248
	3番草	469	869	△ 400
	4番草	545	769	△ 224
	5番草	544	812	△ 268
	6番草	335	510	△ 175
	年合計	3503	4858	△ 1355

調査項目	本年	平年	比較	平年比	
乾物率 (%)	1番草	23.4	19.8	4	
	2番草	17.4	17.5	△ 0	
	3番草	19.3	17.1	2	
	4番草	21.5	18.6	3	
	5番草	16.8	16.3	1	
	6番草	20.3	18.4	2	
乾物収量 (kg/10a)	1番草	43	44	△ 1	98
	2番草	248	288	△ 40	86
	3番草	91	146	△ 55	62
	4番草	117	141	△ 24	83
	5番草	91	127	△ 36	72
	6番草	68	93	△ 25	73
	年合計	658	840	△ 182	78

注) 平年値は前7カ年のうち、最豊年(平成21年)および最凶年(平成25年)を除いた5カ年の平均値である。

Ⅲ. 試験研究及び地域支援活動の概要

1. 試験研究成果及び地域支援活動の概要

1) 安定多収な牧草・飼料作物品種の開発

牧草・飼料作物の優良品種選定に関する試験を実施している。

優良品種選定に関する試験において、本年度に成績をとりまとめ成績会議に提出した品種系統は、アルファルファ「SBA0901」、チモシー「Bor0102」、同「SBT0904」、およびフェストロリウム「北海1号」であり、いずれも北海道優良品種に認定された。

その他、優良品種選定に関して実施した試験の成果は次のとおりである。「北海道草地の植生を改善し高品質粗飼料生産を可能とする牧草品種の育成」では、フェストロリウム、チモシー、ガレガについて、各2系統の適応性検定を行った。飼料作物品種比較試験では、シロクローバ2、チモシー3、アルファルファ3、サイレージ用とうもろこし3品種系統の適応性検定を行った。平成28年度とうもろこし育成系統特性評価では2系統の適応性検定を行った。とうもろこし奨励品種決定調査に供試した系統はなかった。

その他の課題では、ペレニアルライグラス育成品種「ポコロ」および「チニタ」の親系統と育種家種子の保存を継続するとともに、「ポコロ」の合成2代種子の採種圃場の管理と採種を実施した。

2) 高品質自給飼料生産技術の確立

牧草・飼料作物の安定栽培技術や雑草防除技術に関する試験を実施している。

「機動的調査（オーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播利用等に基づく道北地域の草地管理ガイドライン策定に向けた初動調査）」ではオーチャードグラス、ペレニアルライグラスおよびリードカナリーグラスの割合を異にしたサイレージの発酵品質を調査し、必要なペレニアルライグラス等の割合を検討した。「難防除雑草「ハル

ガヤ」の特性解明と防除対策の検討」では生育特性と防除技術を検討するための圃場試験を実施し、現地での更新事例を調査した。

3) 地球温暖化と環境変化に対応した農地の生産環境保全技術の開発

草地環境の保全と家畜ふん尿の有効利用、草地基盤の整備改良等に関する技術開発・調査、ならびに地域ニーズに対応した環境保全研究を実施している。

「環境保全型有機質資源施用基準の設定調査」、「農地管理実態調査」および「道営土地改良事業調査地区土壌調査」については現地調査及び土壌分析を行い、結果を主管場及び担当振興局に報告した。

4) 地域農業の課題解決を目指した技術開発と体系化

「宗谷地域における牧草サイレージの発酵品質向上技術の実証」ではコントラクター作業における牧草踏圧の状況とサイレージの発酵品質を調査した。「天北地域における圃場特性と利用方式区分方法の開発」ではTMRセンターにおける圃場利用に関する聞き取りと現地調査を実施した。

5) 地域支援活動

宗谷地域農業技術支援会議に参画し、管内の地域課題要望に対する情報提供と課題解決の支援を行った。「宗谷地域における牧草サイレージの発酵品質向上技術の実証」として、支援会議の関係者会議で成果について情報提供を行った。また、宗谷地域農業新技術発表会を浜頓別町で開催した。このほか、農業関係団体及び農業改良普及センター等からの要請にもとづき技術支援と研修会等への講師派遣を行った。

2. 試験研究成績の内容

1) 安定多収な牧草・飼料作物品種の開発

(ア) 北海道草地の植生を改善し高品質粗飼料生産を可能とする牧草品種の育成 (6101-624162)

(平成26～29年)

試験目的：各育種場所で育成された牧草系統について、道北地域における適応性を明らかにする。

a. フェストロリウム (平成26～28年)

材料：北農研センター育成系統「北海1号」、「北海2号」およびメドウフェスク「ハルサカエ」(標準品種)・まきばさかえ・ペレニアルライグラス「ポコロ」。方法：条播(畦幅30cm)、播種量200～250g/a、乱塊法4反復、1区面積6.0m²。刈取りは多回刈試験が5回、採草利用試験が3回。

結果：「北海1号」は多回刈り条件での越冬性が「ハルサカエ」および「ポコロ」よりやや優れ、乾物収量は「ハルサカエ」と同程度で「ポコロ」よりやや多かった。採草型試験でも同様の結果が得られた。「北海2号」は多回刈り条件での越冬性は「ハルサカエ」および「ポコロ」と同程度であった。乾物収量は「ハルサカエ」よりやや少なく、「ポコロ」と同程度であった。採草型試験での乾物収量は「ハルサカエ」と同程度で、「ポコロ」より多かった。

b. チモシー (平成27～29年)

材料：北見農試育成系統「北見32号」、「北見33号」および「クンプウ」(標準品種)。方法：条播(畦幅30cm)、平成27年6月2日播種。播種量200g/a、乱塊法4反復、1区面積6.0m²。刈取り3回。

結果(「クンプウ」との比較)：「北見32号」は越冬性はやや優れたが、斑点病程度がやや大きかった。乾物収量はやや多かった。「北見33号」は越冬性はやや優れ、斑点病程度は小さかった。乾物収量はやや多かった。

c. ガレガ (平成27～29年)

材料：北農研センター育成系統「北海1号」、「北海2号」及び「こまさと184」(標準品種)。方法：条播(畦幅50cm)、平成27年6月2日播種。播種量250g/a、乱塊法4反復、1区面積6.0m²。刈取り3回。

結果(「こまさと184」との比較)：「北海1号」の春の萌芽茎数は少なく、1番草の開花始は6日早かった。乾物収量はやや少なかった。「北海2号」の春の萌芽茎数は少なく、1番草の開花始は5日早かった。乾物収量はやや少なかった。

(イ) 飼料作物品種比較試験 (7101-724100)

試験目的：海外導入品種および国内(民間等)育成品種系統について、その特性および生産力を検討し、道北地域における適応性を検討する。

a. 第6次シロクローバ (平成28～30年)

材料：「Aber Lasting」、「Aber Vantage」、「ソーニャ」(標準)。方法：平成28年5月30日播種。①採草型、チモシー「キリタップ」と混散播、1区面積6.0m²、乱塊法4反復。播種量はTY150g/a、WC30g/a、刈取り2回(1回は掃除刈り)、②放牧型、ペレニアルライグラス「ポコロ」と混散播、刈取り3回(1回は掃除刈り)、その他①と同じ。

結果(標準品種と比較)：「Aber Lasting」は採草型、放牧型ともに草勢が穏やかで収量は同程度だった。「Aber Vantage」は採草型、放牧型ともに多収な傾向であった。いずれの試験区でもシロクローバの被度が30～50%と高くなった。

b. 第6次アルファルファ (平成26～28年)

材料：「SBA0901」、「SBA0903」、「SBA0301」、「ハルワカバ」(標準)、「ケレス」(比較)。方法：条播(畦幅30cm)、播種量100g/a、乱塊法4反復、1区面積6.0m²、刈取り3回。

結果(標準品種と比較)：「SBA0901」および「SBA0903」は1番草の倒伏程度はやや小さかったが、各番草の乾物収量は同程度であった。「SBA0301」は1番草の倒伏程度はやや小さく、2番草の乾物収量がやや多かった。

c. 第8次チモシー (平成26～28年)

材料：「Bor0102」、「SBT0903」、「SBT0904」、「なつさかり」(標準)。方法：散播、1区面積6.0m²、乱塊法4反復。播種量は200g/a、刈取り5回。

結果(標準品種と比較)：「Bor0102」は越冬性は同程度で、乾物収量は春と夏に少ない傾向であった。「SBT0903」は越冬性は同程度で、乾物収量は

夏と秋に少ない傾向であった。「SBT0904」は越冬性は同程度で、乾物収量は同程度であった。

d. とうもろこし(サイレージ用) (昭和55年～)

材料：「HK1404」(2年目)、「X70H271」(1年目)、「デュカス」(標準)、「チベリウス」(標準)。方法：栽植密度7576本/10a(畦間60cm×株間22cm)、1区面積11.1m²、乱塊法3反復、播種期5月18日、収穫期10月5日。

結果：「HK1404」は、雌穂乾物率は「デュカス」より約2ポイント低く「チベリウス」より約3ポイント高かった。推定TDN収量は「デュカス」より11%多かった。「X70H271」は、雌穂乾物率は「デュカス」と同程度で「チベリウス」より約5ポイント高かった。推定TDN収量は「デュカス」より4%多かった。

(ウ)平成27年度とうもろこし育成系統特性評価 (7101-714171) (平成27年)

試験目的：北海道農業研究センターの育成系統について、当地域における適応性を検定する。

材料：「月交687」(1年目)、「北交89号」(1年目)、「デュカス」(標準)、「チベリウス」(標準)、「たちびりか」(比較)。方法：(イ)－d. 試験と同じ。

結果：両系統とも熟期は「デュカス」と同程度と考えられた。「月交687」は、収量は「デュカス」に匹敵したが倒伏が「デュカス」に比べ多かった。「北交89号」は、収量は「デュカス」に比べ12%少なかったものの、「デュカス」より雌穂乾物率が高かった。

(エ)とうもろこし奨励品種決定調査 (3101-314110) (昭和59年～)

試験目的：北海道農業研究センターの育成系統について、当地域における適応性を検定する。

材料：標準・比較品種は(ウ)試験と同じ。方法：(イ)－d. 試験と同じ。

結果：本年度は検定系統はなかった。

2)高品質自給飼料生産技術の確立

(ア)オーチャードグラス、ペレニアルライグラス

混播利用等に基づく道北地域の草地管理ガイドライン策定に向けた初動調査(3106-219971) (平成28年)

①試験目的

良好なサイレージ発酵を得るために必要なOGとPRの混合割合およびRCG混入割合からみた基本的な関係性を明らかにする。また、現地におけるOG・PRを混合したサイレージの実態を把握する。

②試験方法

a. オーチャードグラス、ペレニアルライグラス、リードカナリーグラスの混合割合とサイレージ発酵品質

草種混合割合の処理は、RCG(0～20%)×PR(0～50%)×OG(残りの割合)とした。各番草のサンプルはOGの収穫適期に刈り取って半日地干しした後、草種選別し約2cm長で切断して設定の割合に混合した。サイレージは小規模サイレージ発酵試験法(パウチ法)で作成した。

b. オーチャードグラスとペレニアルライグラスの混合サイレージの実態調査

現地で更新時にOG、PRを混合播種した草地から収穫しバンカーサイロで製造されたサイレージの発酵品質を調査する。

③試験結果

a. 1番草において、サイレージ原料中のPR割合はVFA点数、V2スコアと正の比例関係があり、RCG割合が20%以下の場合、V2スコアが概ね80以上とするのに必要なPR割合は40%以上であった。2番草において、サイレージ原料中のPR割合およびRCG割合はpH、VBN含量、VFA点数およびV2スコアにほとんど影響せず、全処理でV2スコアが80以上であった。3番草において、サイレージ原料中のPR割合はVFA点数とは正の比例関係が、RCG割合はVBN含量と負の比例関係があったもののその影響は小さく、V2スコアはRCG100%以外の全処理で80以上であった。

b. 現地におけるOG、PR混合サイレージ発酵品質は刈り取り時の牧草水分が高いと推測されたため添加剤を使用したものの、サイレージの発酵品質はpHが低く、V2スコアは良好であった。

(イ)難防除雑草「ハルガヤ」の特性解明と防除対策の検討(6101-714173)(平成27~29年)

①試験目的

ハルガヤ侵入地域の植生を改善するため、防除技術に必要となる特性を解明し、防除技術開発に資する知見を得る。

②試験方法

1)「ハルガヤ」の生育特性等の解明

調査項目：生育ステージ、種子生産性

2)「ハルガヤ」防除技術の検討

試験項目：除草剤体系処理の有無、施肥量、酸度矯正の有無

3)「ハルガヤ」多発地域における草地更新事例調査

対象地域：美深町、遠別町

③試験結果

1) 開花期は5月20日頃であった。本年落下した種子からの発芽は約2200個体/m²であった。

2) 播種翌年の1番草ハルガヤ率は体系処理<耕起前1回処理であった。播種翌年のチモシー播種区において施肥量を半減させた結果、2番草のハルガヤ率は標準量区より高くなった。酸度矯正の効果は不明瞭だった。

3) 播種翌年には、1番草を収穫してから更新を行った圃場ではハルガヤの実生発生が多くみられたのに対し、早春から更新を行った圃場ではハルガヤはほとんどみられなかった。

3)地球温暖化と環境変化に対応した農地の生産環境保全技術の開発

(ア)環境保全型有機質資源施用基準の設定調査(3105-215500)(平成10年~)

①試験目的

農業基盤である土壌環境について、営農活動が土壌のもつ環境保全機能、物質循環機能などに及ぼす影響を評価し、適切な土壌管理対策の資料とする。

②試験方法

地域、地目、土壌統群を考慮して定点を設け、土壌管理実態、土壌断面形態の変化ならびに土壌理化学性の変化を追跡調査する。

③試験結果

稚内市、豊富町の典型低位泥炭土8定点の草地について土壌調査を実施し、理化学性分析用の土壌を採取した。調査・土壌分析結果は中央農試に報告した。

(イ)農地土壌炭素貯留等基礎調査事業(農地管理実態調査)(106-735951)(平成25~)

①試験目的

全国の農地において、2013年以降の温室効果ガスインベントリ報告に必要な農地土壌炭素量、有機物管理方法、堆肥の種類、施用量等について調査する。

②試験方法

a. 圃場調査

定点8地点について、作土深および仮比重等を測定する。

b. アンケート調査

対象圃場の耕種状況、有機物管理、施肥管理などの聞き取りを行う。

③試験結果

稚内市4定点、豊富町4定点の合計8地点の草地について調査を実施した。調査結果は中央農試に報告した。

(ウ)農業農村整備事業等に係る土壌調査(4105-455900)(昭和40年~)

①試験目的

暗渠排水や土層改良など各種整備事業の適切な推進を図るため、該当地域の草地圃場の土壌調査を実施する。

②調査地区

草地：浜頓別地区、美幌日並地区、紋別地区、湧別地区

調査項目：土壌断面調査、土壌理化学性、石灰・リン酸資材所要量等

③試験結果

土壌調査に基づき土壌調査報告書を作成し、担当振興局へ報告した。

4) 地域農業の課題解決を目指した技術開発と体系化

(ア) 革新的技術導入による地域支援 宗谷地域における牧草サイレージの発酵品質向上技術の実証(3106-31990)(平成27~28年)

① 試験目的

現地における発酵品質の低下要因の解析を実施するとともに、現地農場において牧草サイレージの発酵品質改善技術の有効性を実証する。

② 試験方法

現地農家において、バンカーサイロの積込作業に係る作業体系全体を確認するとともに、バンカーサイロが開封され次第、サンプリングを行い、サイレージの乾物密度および発酵品質を確認する。

③ 試験結果

本年度は、2戸のバンカーサイロにおいて、サイロの手前側、中間部、奥側で乾物密度および発酵品質を調査した。試験2カ年を通じた結果として、まず、試験前に調査したほとんどのサイロ部位で乾物密度が目標とする150kg/m³に達していなかったものが、収穫作業前の事前研修会においてコントラクターのオペレーター等に踏圧作業の留意点を周知したところ、全てのバンカーサイロにおいて乾物密度の目標が達成された。同一バンカーサイロ内において調査部位による乾物率の変動が大きかった。また、乾物率が24%以上であればVスコア80点以上は72%ありpH4.2以下は89%であったが、乾物率24%未満ではVスコア80点以上は27%でpH4.2以下は32%に留まっていた。これらのことから、良好なサイレージの発酵品質を確保するためには、適正な乾物率が必要であることが改めて確認された。

(イ) 天北地域における圃場特性と利用方式区分方法の開発(3101-215971)(平成27~29年)

① 試験目的

天北地域の効率的な圃場利用を推進するため、圃場特性に基づく利用方式を選定する手法を開発し、利用方式区別の生産量・コストおよび粗飼料必要量等を考慮した圃場利用計画の策定に適用する。

② 試験方法

a. 圃場特性評価と利用方式の選定手法

天北地域のTMRセンターを対象とする実態調査および聞き取り調査を行い、実態調査と生産力可能性分級等の既存情報に基づいて圃場特性を評価し、利用区分方式の選定に考慮する項目を抽出する。

b. 利用方式区分の違いによる生産量・コストの

既往の試験成績における収量データ等および現地調査(飼料用とうもろこし、牧草)による生産量および生産コストの試算。

c. 効率的土地利用のための圃場特性の評価を用いた利用方式の適用

圃場特性の評価による利用方式の選定手法による飼料必要量を考慮した利用計画案を策定(TMRセンター対象)し、従来の利用計画との比較検討。

③ 試験結果

a. あるTMRセンターの利用圃場を土壌診断基準における気相率とち密度により分類すると、気相率の基準を満たさない圃場およびち密度の基準を満たす圃場が多いことから、約3/4の圃場が同一区分となった。また、同センターの圃場を既存情報である地力保全基本調査を用いて土壌統別に分類すると7種の土壌統に分類されたが、土壌統と気相率、ち密度の土壌診断基準との関係性は判然としなかった。一方、早春に積雪または滞水により圃場の乾きが遅かった36圃場のうち28圃場は、0-20cm、20-40cm、40-60cmのいずれかの土層で還元反応を示し、両者の関係性が示唆された。気相率、ち密度および還元反応を用い圃場特性(適期作業および収量の期待度)を評価した場合、泥炭土および土壌統未評価の圃場は、それ以外の土壌統の圃場に比べ低位の評価区分に偏った。

b. TMRセンター①で年間に刈り取り2回、化学肥料の施用1回で管理された圃場およびTMRセンター

②で刈り取り2回、化学肥料の施肥2回で管理された圃場における年間乾物収量は、年間の刈り取りおよび化学肥料の施用を3回として管理することにより、各々68%、43%増収すると試算された。

c. サイレージ利用を重視する観点で効率的土地利用の利用方式を考えた場合、現在の細切サイレージ年間必要量と面積あたりの適正収量により効率的利用時の細切サイレージ用面積を求め、その利用圃場を圃場特性評価区分の上位から優先的に選択する手法の適用により、1番草の細切サイレージ用面積は減少し、3番草の利用面積が増え、その他用途に利用可能な圃場は発生する効果が期待できた。

5) 地域支援活動

宗谷地域農業技術支援会議では事務局会議3回、本会議および関係者会議に参加して、平成29年度農業関係地域課題要望調査における5課題にする情報提供と課題解決の支援を行った。また、宗谷地域農業技術支援会議プロジェクト「宗谷地域の効率的な土地利用に関する意向調査」を宗谷農業改良普及センター等と連携して実施し、調査結果をとりまとめた。

さらに、平成29年2月には宗谷地域農業新技術発表会を浜頓別町福祉センターで開催し、酪農経営事例発表1課題の他、道総研成果4課題、宗谷農業改良普及センターおよび宗谷家畜保健衛生所から調査・実証成果各1課題の講演を行うとともに平成28年度畜産関係の成果について資料を配付して紹介した。

技術体系化課題である「宗谷地域における牧草サイレージの発酵品質向上技術の実証」については、先に記述のとおり実施し、支援会議の関係者会議で成果について情報提供を行った。

この他、技術相談への対応とともに、技術支援として農業関係団体、宗谷総合振興局および農業改良普及センター等からの要請にもとづき、農業関係団体職員、普及指導員、農業者集団等を対象とした研修会への講師派遣を行った。

IV 試験研究の成果と普及

1. 普及奨励、普及推進ならびに指導参考事項等

1) 普及奨励事項

- チモシー「Bor0102」
- チモシー「SBT0904」
- アルファルファ「SBA0901」

上記3品種は、既存品種に比べ総合的に優れた特性をもつとして、北海道優良品種となった（北農研、北見農試、根釧農試、畜試と共同実施）。

2) 普及推進事項

- フェストロリウム「北海1号」

ペレニアルライグラスより越冬性に優れ、メドウフェスクに対しては放牧適性・飼料品質の点でより高性能な草種品種として、北海道優良品種となった（北農研のほか5機関・団体と共同実施）。

3) 指導参考事項

該当なし。

2. 論文ならびに資料

1) 論文

○林拓：根釧地域における飼料用トウモロコシの安定栽培技術の確立に関する研究。北海道畜産草地学会誌5：9-15（2016）

2) 学会および研究発表（口頭）

○岡元英樹、早川文乃、岡一義、大城敬二、笹木正志、松原哲也：堆肥を「ツボ置き」した更新草地における初期の草種構成。北海道畜産草地学会第5回大会（2016）

○岡元英樹、笹木正志、松原哲也、増子孝義、大橋優二：窒素・カリ施肥がチモシーの飼料成分と糖含量に及ぼす影響。2017年度日本草地学会弘前大会（2017）

○有田敬俊、二門世、岡元英樹、前田浩貴、大城敬二、岡一義、吉川恵哉、安達美江子、竹田芳彦：混播割合と収穫回数の異なるオーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播草地の草種構成の推移。2017年度日本草地学会弘前大会（2017）

3) 資料

○飼料用とうもろこし 新しいマルチ栽培の特徴

（適品種利用と早期は主で増収期待）。農業共済新聞。平成28年5月1週号

○オーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播導入によるリードカナリーグラス草地の改善効果。農業共済新聞。5月3週号

○オーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播導入によるリードカナリーグラス草地の改善効果。酪農ジャーナル。6月号

○オーチャードグラス、ペレニアルライグラス混播導入におけるリードカナリーグラス草地の改善効果。デーリイマン。8月号

○飼料用とうもろこしの新たなマルチ栽培。デーリイマン。9月号

○飼料用とうもろこしの新マルチ栽培。JA道東あさひ農協便り。10月号

○オーチャード&ペレ（混播）でリードカナリーに勝つ！。デーリイジャパン。平成29年2月号

3. 印刷刊行物

○平成28年度宗谷地域農業新技術発表会資料（2017.2）

4. 技術指導および普及

○林拓：大麦同伴栽培の施工計画について。ホクレン稚内支所。2016.5.16

○藤川朗：OG・PR導入によるリード草地の植生改善について。放牧を考える会。2016.5.23

○林拓：ハルガヤ対策情報交換会。美深町農業振興センター。2016.8.10

○林拓：JAオロロン管内のハルガヤ対策情報交換会。JAオロロン。2016.11.1

○林拓：美深町内におけるとうもろこし栽培意見交換会。上川農改上川北部支所。2016.11.8

○有田敬俊：草地維持のための施肥法。ホクレン稚内支所職員研修会。2016.5.10

○林拓：牧草の種類と特性。ホクレン稚内支所職員研修会。2016.5.10

○林拓：草地とは？牧草とは？。道北作物学会夏季研修会。2016.7.2

○有田敬俊：草地、飼料畑の土づくりについて。

土づくり研修会. 2016. 7. 29

○林拓：宗谷における植生改善の意義と実際. 土づくり研修会. 2016. 7. 29

○有田敬俊：草地管理のあり方. 北海道公共牧場夏季研修会. 2016. 8. 18

○有田敬俊：宗谷管内の土壌の特徴. 平成28年度宗谷管内JA営農指導員技術研修. 2016. 8. 24

○林拓：牧草の種類と品種特性. 平成28年度宗谷管内JA営農指導員技術研修. 2016. 8. 24

○有田敬俊：砂丘ポドゾルの特徴について. 酪農学園大学生視察研修. 2016. 10. 7

○林拓：宗谷における草地実態について. 酪農学園大学生視察研修. 2016. 10. 7

○藤川朗：表計算ソフト「Excel」を用いた質的・量的データの検定方法. 宗谷農改宗谷北部支所職場研修. 2016. 12. 16

○林拓：とうもろこし栽培と草地植生改善に関する話題提供. 美深町植生改善意見交換会. 2017. 2. 17

○林拓：飼料用とうもろこしに関する新技術等の紹介. 宗谷地域施肥防除合理化協議会. 2017. 3. 15

V. その他

1. 職員研修、職場研修、表彰および海外出張等

1) 職員研修

受講者	研修項目	実施期間	研修場所
種村 嘉隆	新任主幹研修	H28. 4. 18～4. 19	道庁別館地下大会議室
種村 嘉隆	会計制度研修	H28. 4. 21	法人本部 1階セミナー室
種村 嘉隆	メンタルヘルスセミナー	H28. 9. 2	宗谷総合振興局講堂
種村 嘉隆	情報セキュリティ対策研修	H28. 9. 30	法人本部 1階セミナー室
笹木 正志	農作業事故ゼロ推進研修	H29. 3. 2	道庁別館地下大会議室

2) 職場研修

○「交通安全研修」

H28. 10. 18 講師 枝幸警察署地域交通課長 熊井敏光

○「南宗谷地域健康学習会 生活習慣病の予防について」

H28. 10. 25 講師 宗谷総合振興局産業医 岡田政信

○「救急救命講習会」

H28. 11. 18 講師 南宗谷消防組合浜頓別支署主査 平中克朋

3) 参観、交流

平成28年7月2日 道北作物学会 (約10名)

平成28年8月4日 試験課題現地研修会 (26名)

平成28年9月1日 飼料作物品種比較試験現地検討会 (約40名)

平成28年10月7日 酪農学園大学 (約10名)

4) 委員会活動

(1) 業務委員会

圃場試験・管理業務、環境整備業務等を円滑に実施するため、毎週木曜日に開催。

(2) 安全衛生委員会

職場の作業環境を点検するとともに、労働安全等について啓蒙。

5) 海外出張 該当者なし

6) 海外派遣 該当者なし

7) 表彰

受賞者

表彰項目

林 拓

北海道畜産草地学会賞 平成28年9月11日

藤川 朗

永年勤続表彰 平成28年10月14日

2. 共催行事

1) 宗谷地域農業新技術発表会

日時 平成29年2月21日(火) 13:00～15:30

場所 浜頓別町・福祉センター

主 催 宗谷地域農業技術支援会議、浜頓別町

目 的：道総研農業試験場が開発した新しい技術や宗谷農業改良普及センターおよび宗谷家畜保健衛生所が現地において調査・実証した成果の中から、宗谷酪農の振興に寄与する項目を中心に、その内容を管内の関係者の方々に広く紹介し、これらへの理解を促進してその普及に資する。

内 容

(1) 酪農経営事例発表

「桜庭牧場の過去・現在・未来」 浜頓別町 櫻庭正昭

(2) 「乳牛の健康に関するアンケート調査」の報告

周産期の飼養管理実態と周産期疾病の発生に関わる要因

根釧農業試験場 松井義貴

(3) 新技術・実証・調査成果の紹介

①マップで選ぶ、飼料用とうもろこしの最適品種

上川農業試験場天北支場 林 拓

②性選別精液を若雌牛に種付けするタイミング

根釧農業試験場 小山 毅

③地域防疫のための酪農場の感染症モニタリング法

畜産試験場 福田茂夫

④エゾシカから牛へ病気はうつっているか？

宗谷家畜保健衛生所 藤吉 聡

⑤オール宗谷で新規就農サポート「宗谷新規就農支援ネットワーク」

宗谷農業改良普及センター 風間基充

VI. 自己点検への対応表

項目	件数
研究成果発表会・企業等向けセミナーの開催件数	1
研究成果発表会・企業等向けセミナーへの延べ参加者数	63
研究会等の開催件数	0
研究会等への延べ参加者数	0
口頭および刊行物による成果の公表件数	13
展示会等への出展件数	0
普及組織との連絡会議等開催件数	7
企業へ訪問し広報活動した件数	0
行政や企業等で活用された成果の数	0
課題対応型支援の実施件数	0
技術審査件数	0
技術相談、技術指導の実施件数	25
研修会・講習会等の開催件数	1
研修会・講習会等への延べ参加人数	35
研修者の延べ受入人数	20
うち企業等技術者や地域産業担い手の受入件数	20
うち大学等の学生の受入人数	1
道関係部との連絡会議等の開催件数	2
市町村との意見交換等の開催件数	1
情報発信の回数	0
道民意見把握調査の回答数	0
うち業務の改善意見数	0
うち改善意見に対する対応件数	0
関係団体等との意見交換等の開催件数	3
国内研修II(外部講師招へいによる職場研修)の受講者数	0
出前授業の実施件数	0
道民向けイベントの開催件数	0
うち公開デー等の開催件数	0
国際協力事業等への協力件数	0

平成28年度
上川農業試験場年報

平成29年10月 発行

地方独立行政法人 北海道総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場

〒078-0397 上川郡比布町南1線5号

TEL 0166-85-2200、ファクシミリ 0166-85-4111

ホームページ <http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/kamikawa/index.html>

地方独立行政法人 北海道総合研究機構
農業研究本部 上川農業試験場天北支場

〒098-5738 枝幸郡浜頓別町緑ヶ丘8丁目2番地

TEL 01634-2-2111、ファクシミリ 01634-2-4686

ホームページ <http://www.hro.or.jp/list/agricultural/research/tenpoku/index.html>